まいど！大西塾
活動記録BOOK

学びあい、高めあい、笑いあおう！

From September 2022 to February 2025

「まいど！」という朗らかな掛け声と、まぶしいほどの笑顔。約40年間にわたってあらゆる業界の中小企業に寄り添い、歩みをともにしてきた「まいど教授」こと大西正曹先生（関西大学名誉教授）が2022年3月に旅立たれたとき、多くの人が心にぽっかりと穴があいたような寂しさを抱きました。

しかし、先生が遺した情熱の火は消えませんでした。その高潔な遺志を継ぎ、2022年9月に産声をあげたのが「まいど！大西塾 ～中小企業経営戦略研究会～」です。

活動の概要：生き方を見つける、あたたかな学びの場

「まいど！大西塾」が掲げたキャッチフレーズは、「学びあい、高めあい、笑いあおう！」。

ただ知識を詰め込むだけの堅苦しい勉強会ではありません。

- 企業経営や人材採用に悩む中小企業の経営者
- キャリアアップを目指す社会人
- 自らの可能性や将来を模索する学生

立場や世代を超えた多様な仲間たちが一堂に集い、各界の専門家やトップランナーを招いた講演会や勉強会、熱のこもったフリートーク（交流会）を重ねてきました。

テーマは、企業のヒストリーや経営戦略、事業承継、DX対策といった最先端の課題から、歴史に学ぶ生き様まで多岐にわたります。

そこは単なる課題解決の場を超えて、参加者一人ひとりが大げさではなく「こんな風に生きていきたい」という人生の羅針盤を発見できる、どこまでもあたたかく前向きなコミュニティでした。

活動期間：バトンを繋いだ、情熱の 2 年半

大西先生の想いを形にし、仲間たちと全力で駆け抜けた活動期間は、2022年9月から2025年2月までの約2年半に及びます。

第1期（2022年9月～2023年2月）

2022年9月21日の開会宣言からスタート。月1回のリモート形式で、発酵バイオの未来からDXの最前線、人々の心を掴む言霊の歴史まで、密度の濃い対話を重ねて土台を築きました。

第2期（2023年4月～2024年1月）

波乱万丈の経営哲学を学ぶとともに、2023年8月には関西大学梅田キャンパスにて「初の単独リアル大会」を開催。オンラインを飛び出し、直接顔を合わせて笑いあう喜びと、ものづくりの街・東大阪の魅力に触れました。

第3期（2024年5月～2025年2月）

次世代へのバトン（WE　have　Next.）や人材育成、ものづくりへの熱い想いをテーマに掲げ、2025年2月12日の最終報告（大阪府技術協会の表彰制度と人材育成）をもって、塾としての活動記録に一区切りを刻みました。

この会が愛された理由

「まいど！大西塾」の記録を紐解くと、どの回のレポートからも参加者たちの「この場が大好きだ」という最高の熱量と愛着が伝わってきます。

大西先生が遺してくれた「人と人とのつながりを大切にする心」が、事務局をはじめとするメンバーの絆となり、毎回素晴らしい笑顔と笑い声を生み出していました。ここで生まれた気づきや、世代を超えて「共に笑いあった時間」は、これからも参加したすべての人々の心の中で、これからの未来を照らす確かな光として生き続けていきます。



大西 正曹 先生 プロフィール

1942年、兵庫県明石市に生まれる。1965年に甲南大学経営学部を卒業後、1967年に同大学大学院人文科学研究科修士課程を修了。産業社会学を専門とし、大阪産業大学助手、佛教大学助教授を経て、関西大学教授、同大学名誉教授を務めた。

「まいど教授」の代名詞ともいえる調査研究は、現場に足を運ぶことから始まった。研究生活の最初の約15年間は、但馬・丹後地域における酒造出稼ぎ者の実態を調査。その後の約40年間は、東大阪をはじめ全国各地の中小企業を訪ね歩いた。門前払いにもひるまず何度も通い続ける姿勢が経営者の信頼を集め、「まいど教授」の愛称で親しまれるようになった。晩年も秋田県大館市へ足を運ぶなど、最期まで全国の中小企業を訪問し、現場に根ざした振興策を提言し続けた。

2001年から2005年まで、NHK教育テレビ「21世紀ビジネス塾」の講師を務めた。2021年にはFMラジオ番組「VUCA時代に挑む中小企業―まいど教授が示す中小企業経営の羅針盤」を企画・出演。さらに、異業種交流会「VUCA時代に挑む会」を主宰し、その活動は「まいど！大西塾」へと発展した。

2003年には、読売新聞で「まいど教授の町工場カルテ」の連載を開始。新聞や雑誌への寄稿、講演活動にも精力的に取り組み、一貫して現場の声を社会へ発信し続けた。主な著書に『VUCA時代に挑む中小企業』『中小企業再生の道』などがある。大阪シティ信用金庫の調査季報に掲載された最新号の論考が、先生の遺稿となった。

その一方で、家庭を何よりも大切にする人でもあった。苦楽を共にした奥様を深く愛し、晩年、奥様が体調を崩されてからは、誠心誠意寄り添い支え続けた。また、四人のお嬢様にも惜しみない愛情を注ぎ、その成長や活躍をいつも誇らしげな笑顔で語っていた。研究者として全国を駆け巡る多忙な日々の中にも、家族への深い愛情が貫かれていた。

主な役職・委員歴

関西大学　名誉教授　元社会連携部産学官連携コーディネーター・一般社団法人大阪モノづくり観光推進協会理事・大館市エコタウン運営委員会名誉顧問・大阪シティ信用金庫顧問・東大阪市技術交流プラザ委員長・JICA中小企業育成支援講師・関西大学バイオファイナリープロジェクトメンバー・東大阪市産業技術支援センター運営委員会委員長・共同通信社政経懇話会講師・東大阪橋梁維持管理研究会（現NPO法人橋守支援センター関西支部）事務局長・京都府城陽市「ＪＲ城陽駅周辺商業再構築検討会議」アドバイザー・NHK21世紀ビジネス塾講師・朝日21関西スクエア企画運営委員・関西メガ・リージョン活性化構想検討委員・モビオ運営委員・近畿経済産業局関連プロジェクト委員歴任



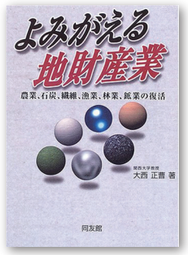
VUCA時代に挑む中小企業
ーまいど教授が注目する
16社の事例と提言
出版社：同友館
大西 正曹 著
発売日：2021/2/3
価格：本体 1,760 円＋税
単行本：200 ページ
ISBN-10：4496055244
ISBN-13：978-4496055249



中小企業再生の道　精選版
歩いて見て聴いた40年
まいど教授の探訪記
発行：晃洋書房
大西 正曹 著
判　型：A5
ページ：250 ページ
定　価：本体 2,800 円＋税
ISBN：9784771031777
刊行年月：2019 年 7 月 20 日



創造・再生のまち おおだて
ー大館市・民の連携が拓く
未来航路
発行：晃洋書房
大西 正曹（監修）
森原 英壽（著）
判　型：四六判
ページ：150 頁
定　価：本体 1,600 円＋税
ISBN：978-4771032439
刊行年月：2019 年 7 月 30 日



よみがえる地財産業
ー農業、石炭、繊維、漁業、
林業、鉱業の復活
発行：同友館
大西 正曹 著
判　型：四六判
ページ：208 頁
定　価：本体 1,600 円＋税
ISBN：9784496040757
刊行年月：2005 年 11 月

CONTENTS

Maido! Onishi Juku – Activity Record Book

はじめに ― 学びあい、高めあい、笑いあおう！　活動の概要とあゆみ …… 2

大西正曹先生 プロフィール …… 4

第1期 *2022.9 › 2023.2*

■ まいど！応援メッセージ …… 6

竹中 篤　「DX（デジタルトランスフォーメーション）のホント!? ～DX推進のために～」 …… 8
「ハッピーで行こう！ ～DX は､そのための手段にすぎない。～」 …… 10

山名 年浩　「どのようにして人々の心を掴んだのか？ 時代を築いた四人の生き様と言霊編」 …… 12
「同じ大学で過ごした者として伝えたい、大西先生の真価」 …… 14

第2期 *2023.4 › 2024.1*

■ まいど！応援メッセージ …… 16

苗村 昭夫　「波乱万丈、“夢”があるから最高の人生に！！」 …… 18
「言葉にすれば、道は拓ける。～一生の親友と誓った「有言実行」の志～」 …… 20

村尾 耕一　「今時代のものづくり」 …… 22
「ものづくりへの情熱を次代へ。～大西先生との出会いから学んだ「真摯」な姿勢～」 …… 24

成瀬 俊彦　「ものづくりの街 東大阪の歴史と魅力　～産業の歴史に見る多様性とイノベーション～」 …… 26
「機械音にかき消されない志。～大西先生と見つめた「小さくとも光る」技術～」 …… 28

田中 聡一　「社員と共に夢を見る、見続けるために」 …… 30
「「まいど！」の合言葉が導いた、現場からの挑戦状 ～大西先生と歩んだ旅の記録～」 …… 32

第3期 *2024.5 › 2025.2*

■ まいど！応援メッセージ …… 34

兎田 朗彦　「WE have Next.」 …… 36
「町工場とヨットハーバーから届ける、まいど教授への「感謝状」」 …… 38

森田 誠　「大西教授と、とある職業訓練指導員の出会いと交流」 …… 40
「感謝を胸に、共創のバトンを握りしめて。～ものづくりの火を次代へつなぐ～」 …… 42

中西 隆　「大阪府技術協会における 表彰制度による人材育成支援」 …… 44
「一期一会を大切に人と人をつなぐ ～縁の下のネットワーク～」 …… 46

記念写真（ZOOM 開催の記録） …… 48

まいど教授へ捧ぐ、心からの「ありがとう」。　**大西 博子（名誉会長）** …… 50

大西先生から受け継いだ志　**森原 英壽（会長）** …… 52

まいど！応援メッセージ

「学びあい、高めあい、笑いあおう！」
この合言葉のもとに集まった大切な仲間たちから、胸が熱くなる応援メッセージが届きました。
その行間からは、ともに奮闘した日々と、
私たちが大切にしてきた“まいどスピリッツ”が生き生きと伝わってきます。
まいど！大西塾らしさが凝縮されたメッセージを、感謝の気持ちを込めてご紹介します。

坂野 昌弘 様
NPO 法人橋守支援センター 理事長 ／ 鋼橋マネジメント研究会 代表 ／ 元関西大学工学部教授

大西先生とともに歩んだ東大阪橋梁維持管理研究会の活動を引き継いだNPO法人橋守支援センター関西支部は、2020年に本部へと昇格しました。また、2017年に設立されたインフラメンテナンス国民会議近畿フォーラムでは、自治体のニーズと企業のシーズ技術をつなぐマッチング活動を続けており、9年間で30件の実証実験を実施。通行止めとなった人道吊橋の再生などにも取り組んできました。

現在、国内には70万橋以上の橋梁が建設・供用されており、そのうち約8割・50万橋以上を地方自治体が管理しています。道路や上下水道を含むインフラの老朽化は深刻な課題であり、昨年の八潮市における道路陥没事故はその象徴的な出来事でした。

こうした地域のインフラを、フットワークの軽い中小企業が支えることは、雇用の安定や地域活性化にも直結します。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

秋本 倫宏 様
株式会社 excellent（エクセラント）代表取締役

まいど！大西塾のセミナーに参加し、各企業の多様な取り組みや考え方に触れることができました。試行錯誤しながらも着実に結果を出されている姿から、多くのことを学ばせていただきました。

モノづくり企業だけでなく、異業種の方々とも交流できたことで、視野が大きく広がりました。今後も、異業種交流の場としてますます発展されることを期待しています。

岡本 匡章 様
有限会社アート印刷 代表取締役

複数回のセミナーを受講し、各企業の特徴や、オープンな場では聞きにくい事情まで、少人数ならではの率直な話を聞けたことは、かけがえのない財産です。

大西先生の思いが受講者の皆さんにしっかりと届いていることが伝わってきました。先生ならこの状況にどう対応されただろう——そんなことを考えながら、先生の遺された考えを取り入れつつ、時代に合わせて進化させていただければと思います。

第１期
CHAPTER

第1回大会 2022年09月21日（水）16:00～17:00
「開会宣言、自己紹介など」

第2回大会 2022年10月19日（水）19:00～20:30
「お酒からバイオそして世界へ。麹・発酵という地財を探求して未来への扉を拓く（前編）」
ヤヱガキグループ会長 長谷川 雄三 様

第3回大会 2022年11月16日（水）19:00～20:30
「お酒からバイオそして世界へ。麹・発酵という地財を探求して未来への扉を拓く（後編）」
ヤヱガキグループ会長 長谷川 雄三 様

第4回大会 2022年12月21日（水）19:00～20:30
「DX（デジタルトランスフォーメーション）のホント!? ～DX推進のために～（前編）」
（一財）関西情報センター常務理事 竹中 篤 様

第5回大会 2023年01月18日（水）19:00～20:30
「DX（デジタルトランスフォーメーション）のホント!? ～DX推進のために～（後編）」
（一財）関西情報センター常務理事 竹中 篤 様

第6回大会 2023年02月15日（水）19:00～20:30
「日本史の変遷と名言摘録どのようにして人々の心を掴んだのか? 時代を築いた四人の生き様と言霊編」
学校法人 花園南学園 相談役・講師　経済教育学会理事
元京都経済短期大学学長　元関西大学総合情報学部教授
山名（岩田）年浩 様

※諸事情により、ヤヱガキグループの詳細は非公開としております。

DX（デジタルトランスフォーメーション）のホント!? ～DX推進のために～

一般財団法人　関西情報センター（ KIIS ）　常務理事　**竹中 篤**



まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第1期・第4回大会　議事録

開催日時：2022年12月21日（水）19:00～20:30（前編）
開催方法：オンライン／ZOOM
ご 講 演：一般財団法人 関西情報センター（KIIS）常務理事　**竹中 篤** 様

■タイトル

DX（デジタルトランスフォーメーション）のホント！？ ～DX推進のために～

■講演内容

恒例の「まいど！」の挨拶とともに第4回大会が幕を開けた。今回の講師は、近畿経済産業局や中小機構などで長年中小企業支援や産業政策に深く携わり、現在は一般財団法人関西情報センター（KIIS）の常務理事を務める竹中篤氏。豊富な現場経験に裏打ちされた「中堅・中小企業が本当に取り組むべきDXのあり方」について、熱のこもった講話が展開された。

冒頭、竹中氏は「DXとは何か？　何のためか？」という本質的な問いを投げかけた。経済産業省の定義を紐解きながら、単なるツールの導入（デジタイゼーション）や個別プロセスのデジタル化（デジタライゼーション）にとどまらず、業務や組織、企業文化そのものを変革して競争優位性を確立することこそが本来のDXであると強調。提唱者であるストルターマン教授の「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という言葉を引用し、DXは企業の未来をより良く変える強力な原動力になり得ると語った。

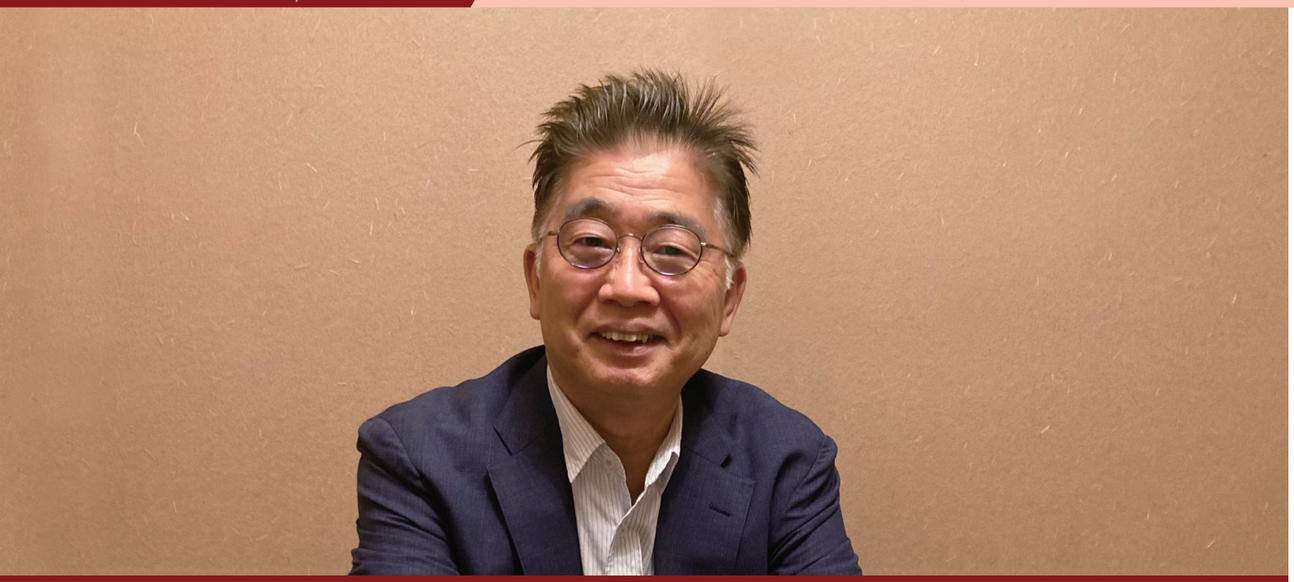
続いて、いま注目を集める「パーパス（存在意義・志）経営」や「CSV（共有価値の創造）」との親和性について解説。国内外の先進企業のパーパスを紹介しながら、企業の存在意義を明確にすることが、ステークホルダーからの支持や従業員のエンゲージメント向上、そして革新（イノベーション）を生み出す土台になると説明した。

後半は、経済産業省が策定した「中堅・中小企業等向けデジタルガバナンス・コード実践の手引き」をベースに、より具体的な実践論へと踏み込んだ。「有限会社ゑびや」や「マツモトプレシジョン株式会社」などのリアルな成功事例を引き合いに出し、中小企業がDXを成功させるための「4つのパターン」を提示した。

1. 経営者のリーダーシップと経営ビジョン（危機感や気づきをいかに持てるか）
2. まずは身近な所から（アナログデータのデジタル化から始める）
3. デジタル人材の確保（社内育成や外部ベンダー・専門家との連携）
4. 新たな価値・マーケットの創出

最後に、デジタル時代を生き抜くためには、現状の延長線上で考える＝「フォアキャスト」ではなく、自社が目指すべき未来像を描いて逆算する「バックキャスティング」のアプローチが極めて重要であると締めくくった。

※後編は第 5 回大会として、2023 年 01 月 18 日（水）19:00 ～ 20:30 に実施された。



ハッピーで行こう！

DX は、そのための手段にすぎない。

一般財団法人 関西情報センター（KIIS） 常務理事 竹中 篤

産業を語り合った交流の原点

大西先生には、経済産業省近畿経済産業局に入局後、何度かお声掛けいただいていたのですが、先生とのお付き合いが一層深まったのは、先生が調査・交流を続けておられたインドネシアをはじめとするアジア・太平洋地域との関係強化を目指すプロジェクト、「アジア・太平洋地域における産業振興整備計画調査」（1995～1996年度）にご参画いただいてからです。

この調査は、東大阪地域をはじめとする我が国の中小企業育成をモデルに、アジア・太平洋地域全体に各国の基盤となる産業・中小企業の育成方策を模索・提案するもので、先生には東大阪及びインドネシアの実情への深い理解に基づくご指導をいただきました。

また、この調査での分析結果は、国民金融公庫調査季報41号・「東大阪地域における中小企業集積の分析」（1997年5月）でより精緻に展開され、東大阪の産業集積の特殊性と産業基盤としての重要性を広く世に知らしめる契機ともなりました。

さらに、近畿経済産業局がまとめた「関西発！経済再生拠点化計画～関西メガ・リージョン活性化構想～」の発刊（2009年5月）に当たっては、同構想検討委員会の委員としてご参画いただき、「メンテナンス産業」という概念を提示され、橋梁・道路等の維持管理の重要性を説かれました。当時は誰も見向きしなかった視点ですが、今や社会全体の課題となっています。

また同報告書の委員メッセージとして、地域の財産＝「地財」を「もの」ではなく、「こと」として見直すことの重要性を指摘されています。

本作りに込めた中小企業へのエール

2012年に出版された『時代の車窓から見た中小企業』には、私も一部執筆者として参加しました。大西先生から「竹中さんも、書いてくださいよ！」とやさしくお声掛けいただいたことを覚えています。当時の私は竹中産業政策研究所の代表として、産業クラスター政策の講演等を行っていましたが。そこでの経験を活かして綴った書籍は好評を博し、続編の企画も進んでいたのです。先生が多忙のあまり執筆に手を付けられず、結局お蔵入りに…残念ではありましたが、今となっては先生らしい微笑ましいエピソードです。

先生とは、「中小企業は、今や連携して大企業を代替する機能を持つべきだ」とよく話しました。下請け構造に頼るだけではなく、自ら市場を開拓し、製品を生み出していく力を持たなければならない、と。その考え方は、今もなお現場に響くものだと思います。

DXと日本型経営に託す可能性

大西先生の思いに共鳴し、多くの方々が元気をもらったことが、「まいど！大西塾」へとつながりました。私も講師として、DXについてお話ししました。DXは難解で高いハードルがあるように思われがちですが、実際はもっと身近で、取り組みやすいものです。

もし再び登壇の機会があるなら「DX支援と日本型経営のススメ！」をテーマにしたいと思います。企業の倫理観を大切にしつつ、データやデジタルを幸福追求のツールとして使いこなす＝「ハピネスドリブン」の発想を取り入れること。その両立こそが日本型経営の強みになると信じています。

最後にお伝えしたいのは、こんな世の中だからこそ「自分の頭で考えましょう！」、「デジタルを、幸福になるための手段として使いましょう！」、ということです。

ハッピーで行こう！…私たちが提唱する「ハピネスドリブン」の考え方は、経済やDXの推進においても重要な視点です。

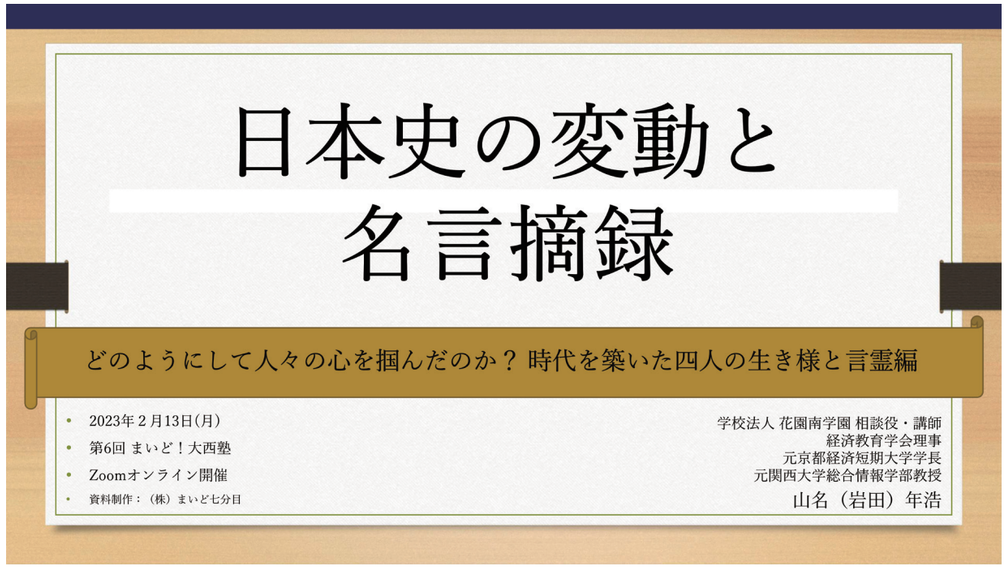
「地財」を「もの」ではなく、「こと」として見直すこと…先生が見つめ続けた「地財」とは、まさに地域・地元の持つハピネス（幸福）の源泉のことを指していたのかも知れません。

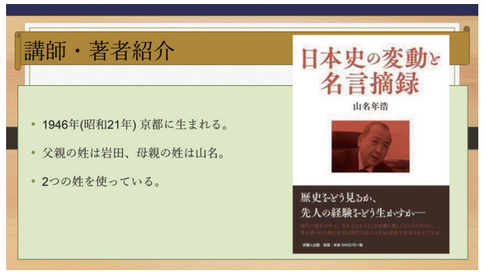
先生と再び一緒に本を作ることは叶いませんでしたが、その精神を受け継ぎ、これからも関西の中小企業を応援し続けたいと思います。



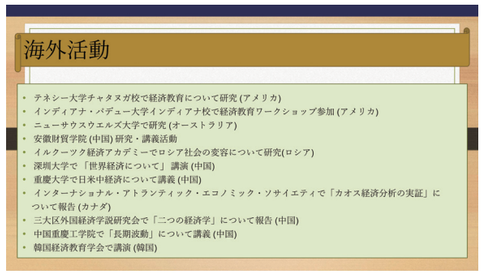
どのようにして人々の心を掴んだのか?
時代を築いた四人の生き様と言霊編（日本史の変動と名言摘録）

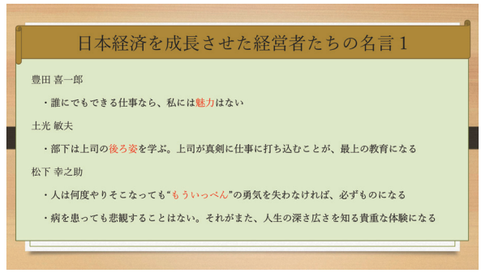
学校法人 花園南学園 相談役・講師　経済教育学会理事
元京都経済短期大学学長　元関西大学総合情報学部教授　山名（岩田）年浩











まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第1期・第6回大会　議事録

開催日時：2023年02月15日（水）19:00～20:30
開催方法：オンライン／ZOOM
ご 講 演：学校法人 花園南学園 相談役・講師　経済教育学会理事
元京都経済短期大学学長　元関西大学総合情報学部教授
山名（岩田）年浩 様

■タイトル

どのようにして人々の心を掴んだのか？ 時代を築いた四人の生き様と言霊編
（日本史の変動と名言摘録）

■講演内容

今回の講師は、大西先生と同じ関西大学で長年教鞭を執り、大規模会場にて約650回もの講演実績を持つ山名（岩田）年浩氏。著書『日本史の変遷と名言摘録』をもとに、歴史を動かした人物たちの言葉が人々の心を動かした理由について講演した。

山名氏は、「名言は覚えるものではなく、自らの目標を明確にし、行動へ向けてこそ力になる」と語り、歴史を現代経営に生かす視点を示した。

最初に取り上げたのは、日米開戦に最後まで慎重だった山本五十六。「やって見せ、言って聞かせて…」という名言は、部下への深い信頼から生まれたものだと解説した。命令ではなく、自ら手本を示し、相手の長所を認めることで主体性を育てることこそ、真のリーダーシップであると説いた。

続いて、財政難の米沢藩を再建した上杉鷹山を紹介。領民とともに汗を流し、自ら率先して行動する姿勢によって改革を実現した。その背中で示すリーダー像は、現在の組織運営にも通じる普遍的な教訓である。

さらに、戦後日本の復興を導いた吉田茂は、「忍耐」の大切さと、ユーモアを交えた人間力で周囲をまとめた指導者として紹介された。一方、女子教育の礎を築いた津田梅子は、「自ら考え、真理を見抜く力」を育む教育の重要性を説き、未来を担う人材育成の本質を示した。

講演の締めくくりには、豊田喜一郎、土光敏夫、松下幸之助、本田宗一郎、井深大、永守重信ら、日本経済を牽引した経営者たちの名言を紹介。「後ろ姿が教育になる」「もういっぺんの勇気を失わない」など、時代を超えて受け継がれる言葉が参加者の胸に深く刻まれた。

山名氏は最後に、「歴史とは、時代背景と人物の役割を考える学問である」と総括。偉人たちの生き様と言霊は、現代の中小企業経営者にとっても、組織づくりや人材育成、未来への挑戦を支える大きな指針となることを力強く伝える講演となった。



同じ大学で過ごした者として伝えたい、大西先生の真価

学校法人 花園南学園 相談役・講師　経済教育学会理事
元京都経済短期大学学長　元関西大学総合情報学部教授　山名（岩田）年浩

大学を越えて広がる実践の場

大西先生と私は、同じ時代に関西大学で教鞭を執ってきました。彼は千里山キャンパス、私は高槻キャンパスと勤務地こそ異なってはいましたが、共通していたのは「大学の外にも授業の場を広げる」姿勢でした。先生は全国各地を訪れ、企業の立ち上げや相談に関わり、多くを無償に近い形で取り組まれていました。その熱意は教育者の枠を超え、地域や社会にまで広く届いていたことを知っています。

私自身も各地で講演を行い、経営者や社員の皆さんと向き合ってきました。お互いの活動には重なる部分もありましたが、先生は企業の現場に深く入り、手弁当で全国各地へ出かけ、講演の場を通して語りかけ、アドバイスし、輪を広げられました。先生は企業者にアドバイスされ、私は学生にアドバイスしました。それでも「現実の社会と大学での学問をどう結びつけるのか」という問いを持ち続けた点は、先生と私の共通する歩みだったように思います。

気取りなく、人に寄り添う姿勢

大西先生の魅力は、何よりも「人との距離の近さ」にあったように思います。大学の教員は、とかく高みに立ちがちですが、先生は決してそうではありませんでした。中小企業の古ぼけた事務所や機械油の臭いが充満する町工場にも足しげく訪れ、現場の人々と同じ空気を吸い、同じ目線で語り合われていました。そうした人間味あふれる姿勢があったからこそ、学生からも企業人からもたいへん慕われていたのだと思います。

「まいど！大西塾」は、先生のご逝去の後に開設されました。しかし私は、大西先生が生前に積み重ねてこられた人との交流や、社会と大学を結ぶ実践が、そのまま会の下地になっていると感じています。もし今もお元気であれば、きっと塾の活動を喜び、塾生と共に議論を交わしておられたに違いありません。

私が「まいど！大西塾」に関わったとき、集まった方々は事業の持続的な成長と社会の未来を背負う覚悟を備えた人たちばかりで、その熱気は大学とはまた異なるものでした。そこに大西先生の精神が息づいているように思えたのは、私だけではないはずです。学問と社会、理論と現場を橋渡しするその姿勢は、今もなお塾を支える大きな柱であり続けています。

先生から受け継いだ学びとこれから

私は「日本史の変動と名言摘録」という著作で、歴史上の人物の言葉を現代に生かす視点をまとめました。名言をどう今日の課題と結びつけるか、それを問い続けてきた集大成です。

そんな私が講演や授業で常に意識してきたのは「何が相手に伝わっていないのか」を見極め、そこに切り込んでいくことです。その姿勢は、大西先生と重なる部分だったと思います。

今、私は人間の心理をテーマに小説を書く試みにも挑んでいます。人は単純に分類できず、多様で複雑です。その奥深さを描くことは、まさに先生が大切にされた「人との距離感」に通じる営みかもしれません。

大西先生には、ご自身の経験をもっと書き残していただきたかったと、惜しまれてなりません。私が今取り組んでいることを、もしご存命ならどう受け止めてくださっただろうか―。そう思いを馳せながら、これからも学びを続けていきたいと思います。先生の残された志を胸に、社会と大学、そして人と人をつなぐ営みを、私なりに歩んでいくつもりです。



まいど！応援メッセージ

高見 和宏 様
株式会社高見商事 代表取締役社長

全6回のセミナーに参加しました。大西先生ゆかりの登壇者の皆さんは、経営実務や研究に深く携わってこられた方ばかりで、どのお話も非常に参考になりました。特に事業経営に関するお話は、自分自身の状況と重なる部分が多く、大変刺激を受けました。

コーディネーターの森原先生が丁寧にご縁をつないでくださっていることに、深く敬意を表します。後半は参加が難しい回もありましたが、自己研鑽の場として本当に有意義でした。

オンラインで受講できる環境もありがたく、今後も森原先生のご負担にならない範囲で、ゆるやかに続けていただければ十分です。老若男女を問わず、参加の輪がさらに広がることを願っています。

小出 泰弘 様
株式会社 NANKAI 出向 関西高速鉄道 ／ NPO 法人橋守支援センター 副理事長

最初の数回はWebで参加させていただき、資料も拝読しました。講師の皆様の生きざまや、人生へのこだわりに深く感銘を受けました。そのこだわりこそが、東大阪――いや、日本のモノづくりの原点だと感じています。

今回、活動記録を作成されるとのこと、素晴らしい取り組みだと思います。この記録が多くの方の目に触れ、人生をより豊かに、楽しく歩むためのバイブルになることを願っています。

大西先生の遺志を引き継ぎ、中小企業の「井戸端会議」として、これからも温かくつながり続けてください。

仁野 明人 様
有限会社仁野製作所 代表取締役社長

村尾様のセミナーに参加しました。自社の歴史やモノづくりの苦労を、丁寧に準備された資料とともに、とてもわかりやすくお話しいただきました。前日の深夜0時まで準備されたと聞き、その熱意に頭が下がりました。

私はZoomなどのオンライン参加が難しく、参加できたのは村尾様の回のみでしたが、参加者の皆さんが積極的に発言され、和やかな雰囲気で進んでいたのが印象的でした。懇親会も楽しく、村尾様の気さくなお人柄にも感服しました。

森原様、その節は大変お世話になりました。また対面でお会いできる機会を楽しみにしています。

私たちを取り巻く環境はまだまだ厳しいですが、日々の中に楽しみを見つけながら歩んでいきましょう。森原様、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

第２期
CHAPTER

第1回大会　2023年04月28日（金）19:00～20:30
「波乱万丈、“夢”があるから最高の人生に!!（前編）」
株式会社ユニックス 代表取締役会長 苗村 昭夫 様

第2回大会　2023年06月09日（金）19:00～20:30
「波乱万丈、“夢”があるから最高の人生に!!（後編）」
株式会社ユニックス 代表取締役会長 苗村 昭夫 様

第3回大会　2023年08月24日（木）19:00～20:30
「今時代のものづくり」
ナミテイ株式会社 代表取締役社長 村尾 耕一 様

※「まいど！大西塾」初の単独リアル大会
関西大学梅田キャンパス（カンダイミライズ）多目的室705
懇親会（ダイニングバー・サントロペ）

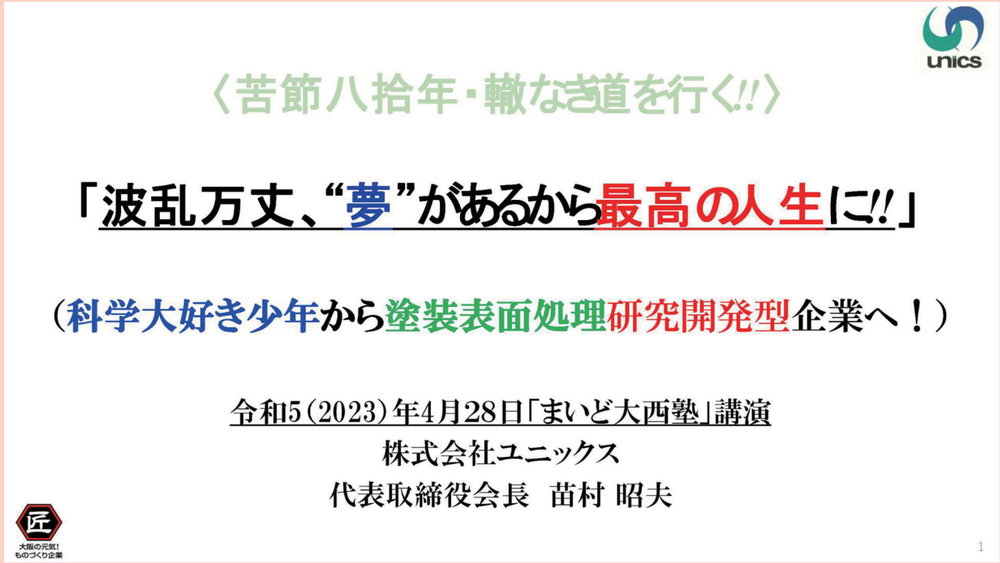
第4回大会　2023年09月26日（火）19:00～20:30
「ものづくりの街 東大阪の歴史と魅力」
中小企業会長倶楽部 事務局長 成瀬 俊彦様　※現時点では、倶楽部運営は停止しております。

第5回大会　2023年12月19日（火）19:00～20:30
「社員と共に夢を見る、見続けるために（前編）」
近畿工業 代表取締役社長 田中 聡一 様

第6回大会　2024年01月18日（木）19:00～20:30
「社員と共に夢を見る、見続けるために（後編）」
近畿工業 代表取締役社長 田中 聡一 様

波乱万丈、“夢”があるから最高の人生に!!（前編）

株式会社ユニックス 代表取締役会長　苗村 昭夫


〈苦節八拾年・轍なき道を行く!!〉

「波乱万丈、“夢”があるから最高の人生に!!」

（科学大好き少年から塗装表面処理研究開発型企業へ！）

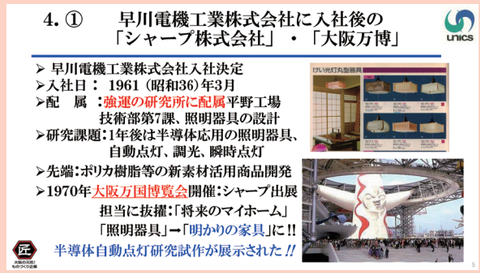
令和5（2023）年4月28日「まいど大西塾」講演
株式会社ユニックス
代表取締役会長　苗村 昭夫

1


1.　株式会社ユニックスの概要・主な取扱商品
企業概要

- 商　　号　株式会社 ユニックス
- 創　　業　1984（昭和59 ）年12月8日
- 会社設立　1988（昭和63 ）年4月20日
- 所 在 地　東大阪市加納4丁目14-31
- 資 本 金　2，200万円
- 従 業 員　本社13名（2023年1月現在:パートタイマー2名含む）
  研究所2名（非常勤技術顧問団）
- 本社工場　・ポリウレタンコーティング・塗料合成製造
  ・テフロン等の テクニカ ルコーティング
  ・エンジニアプラスティックの切削加工
  ・各種機器開発設計製造
- 研 究 所　「ユニレタン研究所」ポリウレタン新塗料研究
- 海外提携先　・韓国　KOREA UNICS　CO.,LTD
  （技術提携　・中国　优尼科斯科技（深圳）有限公司
  ・原料輸出）　（ユニクス科学技術深圳株式会社）

3


4.①　早川電機工業株式会社に入社後の
「シャープ株式会社」・「大阪万博」

- 早川電機工業株式会社入社決定
- 入社日：1961（昭和36）年3月
- 配　属：強運の研究所に配属平野工場
  技術部第7課、照明器具の設計
- 研究課題：1年後は半導体応用の照明器具、
  自動点灯、調光、瞬時点灯
- 先端：ポリカ樹脂等の新素材活用商品開発
- 1970年大阪万国博覧会開催：シャープ出展
  担当に抜擢：「将来のマイホーム」
  「照明器具」→「明かりの家具」に!!
  半導体自動点灯研究試作が展示された!!

5


7.②　株式会社ユニックスの概要・主な取扱商品
ポリウレタンコーティング

目立たないが、重要な「縁の下の力持ち！」

パーツフィーダ機器

新規起業開始「パーツフィーダ塗装から!!」

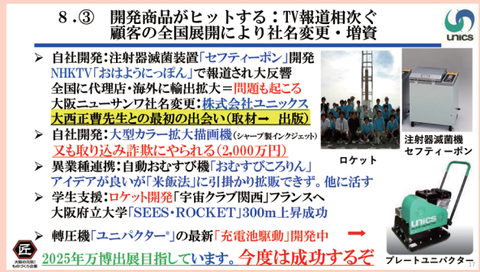
高速道路トンネル排煙扇

塗料開発
- 2液有機溶剤型塗料
- 他社に無い新機能
- 環境対応型に移行
- 塗装ロスの軽減
- 塗料販売への拡大

各種業界の生産設備機器へのコーティング

長所：高耐摩耗/高摩擦/2液混合/常温硬化
・厚塗り/高弾力性/防振/防音/断熱性
短所：有機溶剤型/ゲル化進行速い/高価格
・公害規制対象/健康管理/工場管理等

11


8.③　開発商品がヒットする：TV報道相次ぐ
顧客の全国展開により社名変更・増資

- 自社開発：注射器滅菌装置「セフティーボン」開発
  NHKTV「おはようにっぽん」で報道され大反響
  全国に代理店・海外に輸出拡大＝問題も起こる
  大阪ニューサンワ社名変更：株式会社ユニックス
  大西正曹先生との最初の出会い（取材→　出版）
- 自社開発：大型カラー拡大描画機（シャープ製インクジェット）
  又も取り込み詐欺にやられる（2,000万円）
- 異業種連携：自動おむすび機「おむすびころりん」
  アイデアが良いが「米飯法」に引掛かり拡販できず。他に活す
- 学生支援：ロケット開発「宇宙クラブ関西」フランスへ
  大阪府立大学「SEES・ROCKET」300m上昇成功
- 轉圧機「ユニパクター®」の最新「充電池駆動」開発中　→
  2025年万博出展目指しています。今度は成功するぞ

ロケット

注射器滅菌機
セフティーボン

プレートユニパクター

まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第2期・第1回大会　議事録

開催日時：2023年04月28日（金）19:00～20:30
開催方法：オンライン／ZOOM
ご 講 演：株式会社ユニックス 代表取締役会長　苗村 昭夫 様

■タイトル

波乱万丈、“夢”があるから最高の人生に！！（前編）
・苦節八拾年・轍なき道を行く！
・科学大好き少年から塗装表面処理研究開発型企業へ！

■講演内容／レポート

株式会社ユニックスの概要として、ポリウレタンコーティング塗料合成製造（関西での占有率約七割）に取り組んでいる、各種機器開発設計にも挑戦している、海外に提携先を持つなどが述べられた。特筆すべきは、原料・製品開発の研究所を独自に構えていること。研究開発型企業として、世界一強いポリウレタンの原料開発を実現している。

就職について電器会社大手４社に受かりながら、最も小規模の早川電気工業に就職。発明家・早川氏への憧れ、成長中の企業でこそ活躍できるといった理由が語られた。面接では希望どおり早川氏が自分の担当となり、思いをぶつけることができた「念ずれば通ず」のエピソードも披露された。

在職中、起業後も開発者として成功するが、経営者としては未熟だったとのこと。詐欺被害に遭い、整理縮小を余儀なくされる。心機一転、再スタートの事業が、現在につながるウレタン塗装。３か月から１年はかかると言われる専門技術を３日間の泊まり込みで修得するあたり、「念ずれば通ず」が偶然ではなく、努力と執念の結果であることが伺えた。また、世界に誇る耐摩耗性、耐摺動性を有する製品を生み出すに至ったのは、研究開発の対象をポリウレタンに絞ったからであり、VUCA時代を生き抜くキーワードの一つ「選択と集中」の結果ではないかと考えさせられた。

■グループディスカッション

・大切にしている言葉、「有言実行」に対する思い
・製品の営業戦略について、開発者と経営者、両者の視点による考え方や工夫など
・機械から化学への方向転換、シャープ時代の職業訓練（勉強会）

■連絡事項

・初参加の方によるご挨拶と自己紹介
・近況報告：苗村さんより関西万博への出展計画
・「まいど！大西塾 ～中小企業経営戦略研究会～」商標登録出願中
・「まいど！ 大西塾」ホームページ完成
・次回は6月初旬に開催予定

※後編は第２回大会として、2023 年 06 月 09 日（金）19:00 ～ 20:30 に実施された。



言葉にすれば、道は拓ける。

一生の親友と誓った「有言実行」の志

株式会社ユニックス 代表取締役会長　苗村 昭夫

工場での出会いから始まった縁

私が大西先生と初めて出会ったのは、大阪ニュー・サンワ（現ユニックス）を創業した八尾市の工場でした。ちょうど注射器の滅菌装置を開発して新聞やテレビに取り上げられた頃、先生が突然訪ねてこられたのです。初対面の先生は顔を赤らめ、言葉をつまらせながら話しかけてこられました。大学教授という肩書を意識させない、親しみやすい雰囲気に強い印象を受けました。

その後、先生の著書に私のことを取り上げてくださり、資料を提供したことをきっかけに関係が深まり３～４冊も出版誌に掲載して頂きました。出版記念パーティーも都ホテルで行われ、共に喜びを分かち合ったことを覚えています。食事やお酒をご一緒する機会も度々あり、その場では先生も饒舌で、楽しいひとときでした。さらに南海電鉄の関係者や材料工学の先生を紹介していただくなど、人の輪を広げてくださったことは大きな財産になりました。

自身の挑戦が誰かの勇気となった瞬間

大西先生の没後にスタートした「まいど！大西塾」に、私は講師として声をかけていただきました。先生への恩を思えば、ためらう理由はなく、全力で務めさせていただきました。そこでお話ししたのは、私自身の生き様そのものです。

高卒で工業高校に通いながら母を手伝った青春時代。就職では松下電器や昭和四日市石油の内定を辞退し、あえて小さな早川電機（現・シャープ）を選びました。「必ず伸びる会社だ」と信じて、面接で早川徳次氏に直接伝えた志が通じ、同社の研究開発部門に配属されました。周囲は大卒ばかりでしたが、努力を認めてもらい学ぶ機会を得ました。努力すれば道は開ける―。講演では、この思いを若い人たちに伝えたいと考えました。

講演後には「勇気をもらえた」「夢をあきらめない」という声もいただき、自分の経験が誰かの支えになるのだと実感しました。

夢を持ち続け、仲間とともに前へ進む

「まいど！大西塾」の魅力は、大西先生とつながりのあった経営者や先生たちがそれぞれの志や苦労を語り合えることです。話題が先行したDX（デジタルトランスフォーメーション）の実態から日本史に見る名言、東大阪の歴史と魅力、ものづくり企業を元気にする仕組み、表彰制度による人材育成など幅広いテーマから、ここでしか聞けない貴重な学びを得ました。思えば大学教授とのつながりを開いてくれたのも先生であり、新たな世界に飛び込むきっかけをいただきました。

私の座右の銘は「有言実行」です。思いを言葉にすれば後には引けない。だからこそ努力を重ね、必ず実現しようと奮い立ちます。そして「友をたくさん作れ」という父の教えも心に残っています。大西先生はまさに一生の親友でもあり又、私の人間性および人としての器を大きくして頂けた恩人でもありました。

会社経営においても「現状維持は取り残される」との思いで、新しい商品やサービスの実現に挑み続けてきました。そのためには社員を同志として捉えて一体化を図り、明確な目標を共有することが欠かせません。仲間と共に、前へ前へと進み続けることで、夢は現実になるのです。

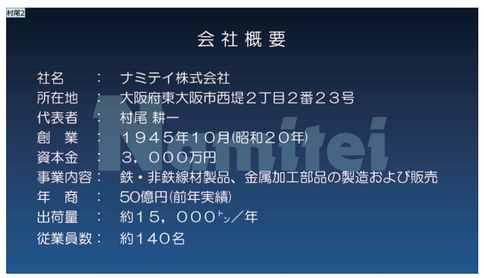
「まいど！大西塾」での学びと出会いは、これからも私の人生を照らし続けてくれると信じています。

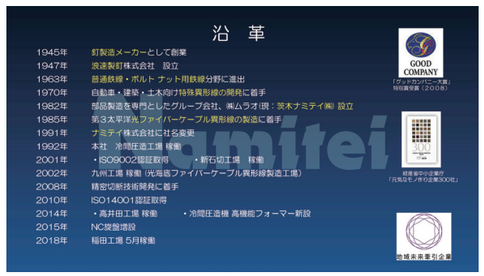


今時代のモノづくり

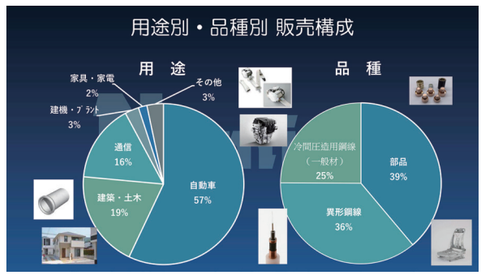
ナミテイ株式会社 代表取締役社長　村尾 耕一











まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第2期・第3回大会　議事録

開催日時：2023年08月24日（火）19:00～20:30
開催方法：リアル／関西大学梅田キャンパス（KANDAI Me RISE）・オンライン／ZOOM
ご 講 演：ナミテイ株式会社 代表取締役社長　**村尾 耕一** 様

■タイトル

今時代のモノづくり

■講演内容

浪速製釘からナミテイへ、社名の由来から「今時代のモノづくり」を軸とする開発ストーリー、2次加工メーカーであり3次加工メーカーでもあるユニークな役割、（ビジネス）成功の要因、人と技術への思いが詰まった経営理念、今後のビジョンなどが語られた。進化を続ける同社製品の紹介では、2024年の新製品まで披露。大通り沿いの社屋壁面に設けられた巨大な看板では、村尾氏自身がモデルを務めたなどの制作秘話まで飛び出した。

聴講者からは「今時代の『モノづくり』とは何か、大いに考えさせられました」「成功の秘訣として掲げられた発想の転換や意識の改革といった点は、どの分野にも通じるものだと痛感させられ、今の自分自身を見つめ直すきっかけにもなりました」といった声が数多く寄せられた。

■懇親会

会場より徒歩約5分、ダイニングバー「サントロペ」を貸し切りで実施。21時からという遅いスタートにも拘らず17名が参加。新たな出会いに刺激を受け、懐かしい友と旧交を温める、大西先生の人柄が偲ばれる豊かな時間が流れた。

講演会・懇親会を通して、「まいど！大西塾」の理念、「学びあい、高めあい、笑いあおう！」を体現するものであった。



ものづくりへの情熱を次代へ。

大西先生との出会いから学んだ「真摯」な姿勢

ナミテイ株式会社 代表取締役社長　村尾 耕一

ものづくりとの出会いと塾での学び

私が初めて大西先生と出会ったのは、会長（当事社長）の紹介を通じてのことでした。直接の交流は多くありませんでしたが、ものづくりへの情熱がひしひしと伝わる方で、その周囲の仲間たちも皆、技術が大好きな人ばかりでした。

塾での講義では、自社の歴史や時代の変化にどう対応していくべきかというテーマが中心でした。発表の場に立つ中で、私も自社の方向性に確かな自信を持つことができました。グロービス経済学院での学びと連動しており、参加者同士の交流も活発でした。少人数のクローズな会だからこそ、自由に意見を交わし、お互いの知識や経験を共有できたのです。その場で交わされた議論や質問から、自社や業界に対する気付きが生まれることも多く、学びの深さを実感しました。

思い返すと、講義の後に行われた懇親会でも、ピザを囲みながら技術の話や会社の方向性について熱く語り合ったことが印象に残っています。皆、ものづくりを心から楽しんでおり、その熱量が空間全体に広がっていたのです。

地域と共に成長する仕事の流儀

講義や懇親会を通じて強く感じたのは、ものづくりは単なる技術の追求だけでなく、人や地域との関わりを大切にする営みだということ。工場をオープンにしたり、地域イベントに参加したりすることで、住民との信頼関係を築きながら、次世代の職人を育てる環境を整えています。工場の騒音問題や周囲の生活への影響にも配慮しながら運営している点に、責任感と誇りを強く感じました。自動化や省力化の進展にも取り組む一方で、人の手による職人技の価値を守る姿勢は揺るぎません。

当社の経営理念には、革新的な工法や技術を磨き、関係者を巻き込みながら成長し、社会に貢献することが掲げられています。社員やお客さま、地域全体に感謝の気持ちを伝え、信頼関係を大切にすることが、仕事の流儀であり生き方そのものなのだと感じます。利他の精神に基づき、自社の成長と地域の発展を同時に目指す姿勢は、今後も変わることのない指針です。

次世代への継承とものづくりの未来

これからの課題は、ものづくりの楽しさや技術の価値を次世代に伝えていくことです。オープンファクトリーやまち工場の駅の取り組みにより、子どもたちや若手職人が実際に技術を体験し、興味を持つきっかけを作ることが可能になります。さらに、職人技の解析や新技術の導入を進めつつも、人として成長できる環境を提供することが不可欠です。これまで手取り足取り教えられていた技術を、データや解析によって効率的に伝える試みも始まっています。日本のものづくりの価値を守りつつ、地域に愛される会社であり続けるためには、利他の精神を持ち、国や地域の発展を意識した行動が求められます。

初代社長である祖父の個人経営から始まった当社。その工場で生まれた製品が、いまや地域や家庭に、そして海底ケーブル用光ファイバー保護異型線を通して世界各国のつながりに寄与していると考えると、ファミリービジネス（家業）としての継続がいかに意味深いかを実感します。また、尊敬する大西先生からいただいた「真摯にものづくりに向き合う」という教えは、今も私の血肉となっています。先生へのご恩への恩返しとしても、この経験と学びを次の世代へ着実に伝えていきたい。ものづくりの未来を支え、地域や社会に貢献していきたいと強く思っています。



ものづくりの街 東大阪の歴史と魅力
～産業の歴史に見る多様性とイノベーション～

中小企業会長倶楽部 事務局長　**成瀬 俊彦**



まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第2期・第4回大会　議事録

開催日時：2023年09月26日（火）19:00～20:30
開催方法：オンライン／ZOOM
ご 講 演：中小企業会長倶楽部 事務局長　**成瀬 俊彦** 様　※現時点では、倶楽部運営は停止しております。

■タイトル

ものづくりの街 東大阪の歴史と魅力
～産業の歴史に見る多様性とイノベーション～

■講演内容

東大阪市のモノづくり文化について、その源流を河内木綿が盛んだった室町時代にまでさかのぼって解説いただいた。トピックスとして司馬遼太郎記念館、回転すし発祥の地、特殊ねじの開発、大西先生の足跡にも触れられた。

話題の空飛ぶクルマやオンリーワン・ナンバーワン製品、今後の主流と目される新素材、単工程の製造企業を束ねて活かす「ゼネプロ」、東大阪が舞台のドラマ「舞いあがれ！」まで、興味深い話題が満載であった。成瀬氏が実際に現場へ行って、見て、聞いて、話して、考察を重ねる。あるいは当事者であるからこそ一つひとつの話題に深みがあり、最後まで興味深く伺えた。

なお資料の9ページに登場する特殊ねじについては、その多くをクリエイション・コア東大阪の展示場で実物を見ることができる。

■クリエイション・コア東大阪

https://www.smrj.go.jp/incubation/higashi-osaka/index.html



機械音にかき消されない志。

大西先生と見つめた「小さくとも光る」技術

工場を記録する会　顧問　成瀬 俊彦

まいど教授との出会いに学ぶ

私が最初に大西先生を知ったのは、先生が関西大学の教授として町工場を訪問されていた時代でした。40年以上も前のことになります。当時、大学の先生が中小零細企業を訪問することはまったく珍しく、私たちも驚きましたが、一番驚いたのは工場の方々だったと思います。先生が「まいど、関西大学の大西です」と声をかけても、機械音にかき消されて「関西電力」と聞き間違えられたという逸話も残っています。それでもめげずに「まいど、まいど」と訪問するうち、「まいど教授」と呼ばれるようになりました。

先生の訪問は、単なる顔見せではなく、学生が実地で学ぶための土台づくりでもありました。小さな会社であっても世界に誇れる技術を持つところがある。その現場を知ることで、学生も、工場の方々も、互いに新しい気づきを得られたのです。私自身も先生とご一緒して、地域の工業集積地をどうすればもっと開かれた場にできるか、議論に加わったことを覚えています。実現には至りませんでしたが、現場を知る大切さを、身をもって学びました。

まいど!大西塾で語った東大阪

私が「まいど！大西塾」に関わるようになったのは、大西先生の偲ぶ会がきっかけでした。懐かしい仲間と再会し、その流れで勉強会に参加し、講師としても登壇する機会をいただきました。

私が話したテーマは「ものづくりの街　東大阪の歴史と魅力」でした。特にNHKドラマ『舞い上がれ！』でも取り上げられたネジ産業に焦点を当てました。ネジには「転造」「熱処理」「表面処理」など多くの工程があり、それぞれを専門とする会社が約200社も東大阪に存在します。小さな部品に見えても、多くの人の知恵と技術が結集しているのです。その奥深さに、塾の参加者の方々も大いに感心してくださいました。

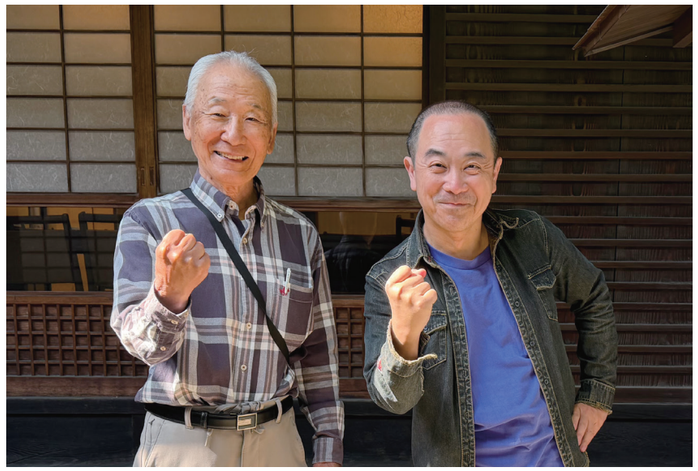
また、「司馬遼太郎記念館」、元祖回転寿司の「元禄寿司」、ピーナッツの殻むき機、さらには空飛ぶクルマといった話題も交え、東大阪の底力を紹介しました。大西先生が好奇心を持って訪ね歩かれたように、私もその精神を受け継いでお話しできたことをうれしく思います。

小さくても輝くものを大切に

「まいど！大西塾」の魅力は、先生の人懐っこさを映すように、誰もが自由に意見を言える明るい雰囲気にありました。インターネットや書籍だけでは会社の全貌はわかりません。経営者の思いや社風を含めて初めて理解できる。それを学ぶ場が「まいど！大西塾」だったのです。

私が最後に伝えたいことは「規模は小さくとも、市場のオンリーワンを目指すことの大切さ」です。東大阪商工会議所が優れた企業を紹介するガイドブック「きんぼし東大阪」には、独自技術を持つ企業が数多く掲載されていますし、『Forbes JAPAN』の「スモールジャイアンツ・アワード」（2022年11月㈱竹中製作所受賞）も、まさにその精神を体現しています。小さくてもキラリと光る技術があれば、世界一になることもできる。大西先生と私が意気投合したのも、そうした価値観を共有していたからだと思います。

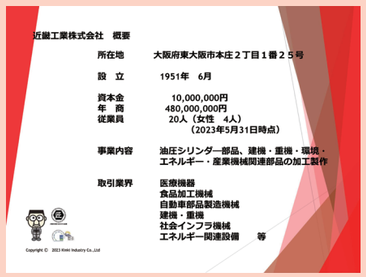
先生の遺志を継ぐ「まいど！大西塾」での経験は、私にとっても学びの連続でした。これからも、小さな輝きを見逃さず、未来につなげていきたいと願っています。

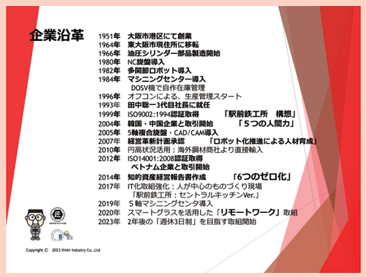


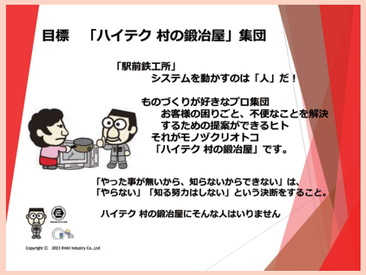
社員と共に夢を見る、見続けるために（前編）

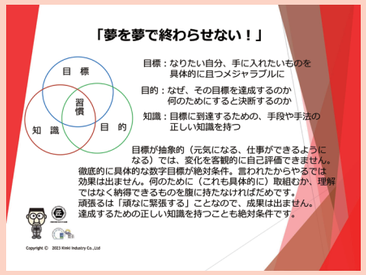
近畿工業 代表取締役社長　田中 聡一











まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第2期・第5回大会　議事録

開催日時：2023年12月19日（火）19:00～20:30
開催方法：オンライン／ZOOM
収録場所：近畿工業様 新社屋
ご 講 演：近畿工業 代表取締役社長　田中 聡一 様

■タイトル

社員と共に夢を見る、見続けるために（前編）

■講演内容

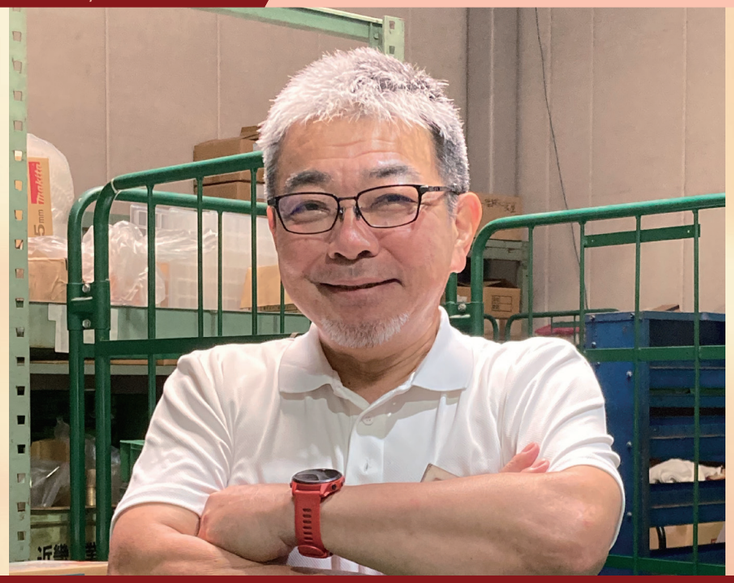
近畿工業様の三代目社長である田中聡一氏。就任したのは1993年11月、先代の急逝による突然の承継であった。折しもバブル崩壊により景気が底なしの後退を続ける中、就任時の所信表明においては「『やめる』選択肢を持って経営をさせてもらいます」と発表する。どうにもならない場合、傷口が浅いうちに手を引くことで、従業員や取引先に迷惑をかけない。田中氏の誠実な人柄が伺えるコメントではあったが、数人の自主退職者を出すに至った。

それから約30年間、浮き沈みの激しい業界にあって、見事に事業を継続・発展させている。経理や財務の知識どころか経営者としての心構えもないまま大役を担った田中氏が歩んできた道のりには、いろんな出会いとさまざまなドラマがあった。

田中氏ならではの独創的な発想と不屈の精神が見てとれるエピソードも紹介された。自力によるISO9002：1994認証取得、人手不足解消と地域貢献を同時に果たす駅前鉄工所、ものづくりで人助けをするハイテク村の鍛冶屋……。近畿工業様の人材育成の中心となっている「5つの人間力」には、特に大きな関心が寄せられた。

その後、世界を席巻したリーマンショックやコロナ禍に、田中氏はどう立ち向かったのか。期待感が高まったところで次回・後編への持ち越しとなった。

※後編は第 6 回大会として、2024 年 01 月 18 日（木）19:00 ～ 20:30 に実施された。同社工場からの現場中継といったスタイルで登場。
田中氏の撮影によって映しだされた場内は清潔感にあふれ、前回講演で述べた「（嬉しくて思わず）床に寝ころんだ」との言葉を裏付けた。



「まいど!」の合言葉が導いた、現場からの挑戦状

― 大西先生と歩んだ旅の記録 ―

近畿工業 代表取締役社長　田中 聡一

出会いが開いた新たな道

私が大西先生と出会ったのは、突然の訪問でした。ある日、アポなしで自社（近畿工業）に来られ、現場をご覧になったのです。当時、三台のロボットが稼働しており、その姿を「えらい先進的やなあ」と評価いただいたことをよく覚えています。その後、ＰＲＥＸ（公益財団法人太平洋人材交流センター）から海外研修生の工場見学を依頼され、快諾しました。さらに海外展開への考えを語ったところ感心され、関西大学でキャリアシップの講義をする機会をいただきました。

その講義で私は学生に「残りのキャンパスライフで、必ず海外に行け！」と強く伝えました。それもパッケージ旅行ではなく、オープンチケットを使って現地調達する旅です。こうしたメッセージを、私自身の経験を踏まえて語ると、学生から「感動しました」「挑戦します」と声をかけられ、大きな手応えを感じました。

挑戦を共有する場

その後、大西先生の志を受け継ぐ形で勉強会が生まれました。私が講師として登壇したとき、会場には先生と親しかった先輩方が並び、「自分のような青二才が話してよいのか」と緊張したことを思い出します。しかし、皆さんの温かさに支えられ、安心して話すことができました。

講座のテーマは「社員と共に夢を見る、見続けるために」。経営者にとって最も大切なのは夢を持ち続けることだと語りました。ただ座学で話すだけではなく、せっかくの機会だからと工場の作業場に自らカメラを持ち込んで生中継を行い、実際の加工風景を紹介しました。これまでの「まいど！大西塾」にはなかった試みで、参加者からも好評をいただきました。

経営において伝えたかったのは「順調なときこそ次の備えを」ということです。移ろいやすい社会の風向きを敏感に感じ取り、常に次を考える姿勢こそ大切だと強調しました。

仲間と紡いだ学びの瞬間

勉強会を通じて得られた仲間との出会いは、何よりの財産です。経験や視点の違いが交わり、新たな気づきを生んでくれました。なかでも森原さんとのエピソードは忘れられません。なぜか来られるときはいつも雨で、ある日には大雨の中、中継用のパソコンを抱えて開始5分前に到着。大わらわで準備しましたが、その熱意がかえって場の一体感を高めました。

壁一面のメッセージに希望を託して

「まいど！大西塾 活動記録BOOK」の取材を受けている今、当社は大阪万博ヘルスケアパビリオンでの展示期間の閉幕を迎えようとしています。ブース内には雪国の「かまくら」を思わせるドームが幾つもあり、内部ではVR映像も体験できます。1万人を超える来場者が訪れ、子どもから高齢者、海外の方まで多くの方がメッセージをポストイットに書き、ドームの壁一面に貼り重ねています。ここには東大阪のものづくり企業の力が結集しており、その熱気と希望に満ちています。

大西先生、どうか今からでも天国からサッと地上へ移動して、万博の会場を視察してください。私たちが積み上げてきた技術と知恵を、その目で確かめていただきたいのです。そして「まいど！」の掛け声を合図に、もう一度語り合えたなら、これ以上の喜びはありません。

先生に届くことを願いながら、私たちはこれからも歩みを続けてまいります。



まいど！応援メッセージ

百々 昭人 様
ひととき・らぼ

第一線でご活躍の皆様から、大西先生との出会いや仕事にまつわるエピソードをお聞きするたびに、先生の“共感力”と“人懐っこさ”が自然と思い浮かびました。それこそが、多くの人を引き寄せてきた先生の魅力だったのだと、改めて感じています。

毎回、森原さんの「まいど！」の掛け声で始まり終わるセミナーに、いつも元気をいただき、参加者の皆さんの存在がとても心強かったです。本当にありがとうございました！

末松 大幸 様
株式会社 トップコーチングスタジアム代表取締役
株式会社 バーテック取締役コーチ

大西先生が抱いていた思い。それは、地域を元気にしたい、中小企業を応援したいということ。その志を具現化し、さらに発展させていくために生まれたのが、「まいど！大西塾」です。

かつて中小企業の若き二代目社長として「今に見ておれ」の精神で走り続けてきた私だからこそ、現場に飛び込み、取材を通じて中小企業の隠れた魅力・強さを引き出すことの大切さを信じています。これからも現場主義を貫き、森原さんとともに日本の中小企業に光を当てる活動を続けていきます。

運営サポート　寶池 弘 様



大西先生とは直接お会いする機会がありませんでしたが、ご縁をいただき、まいど！大西塾の立ち上げから全会を通じてサポートさせていただきました。きっかけは、大阪府よろず支援拠点の末松さんから森原さんをご紹介いただいたことでした。異業種交流会のディレクターや奉仕団体の会長を務めた経験が評価され、お手伝いすることになりました。

当初は「果たして人が集まるだろうか」と不安に思っていました。しかし実際には、地域や業種、立場を問わず多くの方々が参加され、その熱気と広がりに驚いたことを今でも鮮明に覚えています。また、多くの経営者や専門家の皆様から、企業や業界の変遷、経営に関する貴重なお話を直接伺う機会に恵まれ、私自身も大変勉強させていただきました。

大西先生の教えとご縁があったからこそ、生前お会いできなかった私も、このような形で携わることができました。心より感謝申し上げます。今後も「まいど！大西塾」が形を変えながら末永く受け継がれ、学びとご縁の場であり続けることを願っております。

第３期
CHAPTER

第1回大会　2024年05月09日（木）19:00～20:30
「WE have Next.（前編）」
マロール 代表取締役社長 兎田 朗彦 様

第2回大会　2024年06月20日（木）19:00～20:30
「WE have Next.（後編）」
マロール 代表取締役社長 兎田 朗彦 様

第3回大会　2024年08月29日（木）19:00～20:45
「大西教授と、とある職業訓練指導員の出会いと交流」
ものづくり知好楽 代表 森田 誠 様

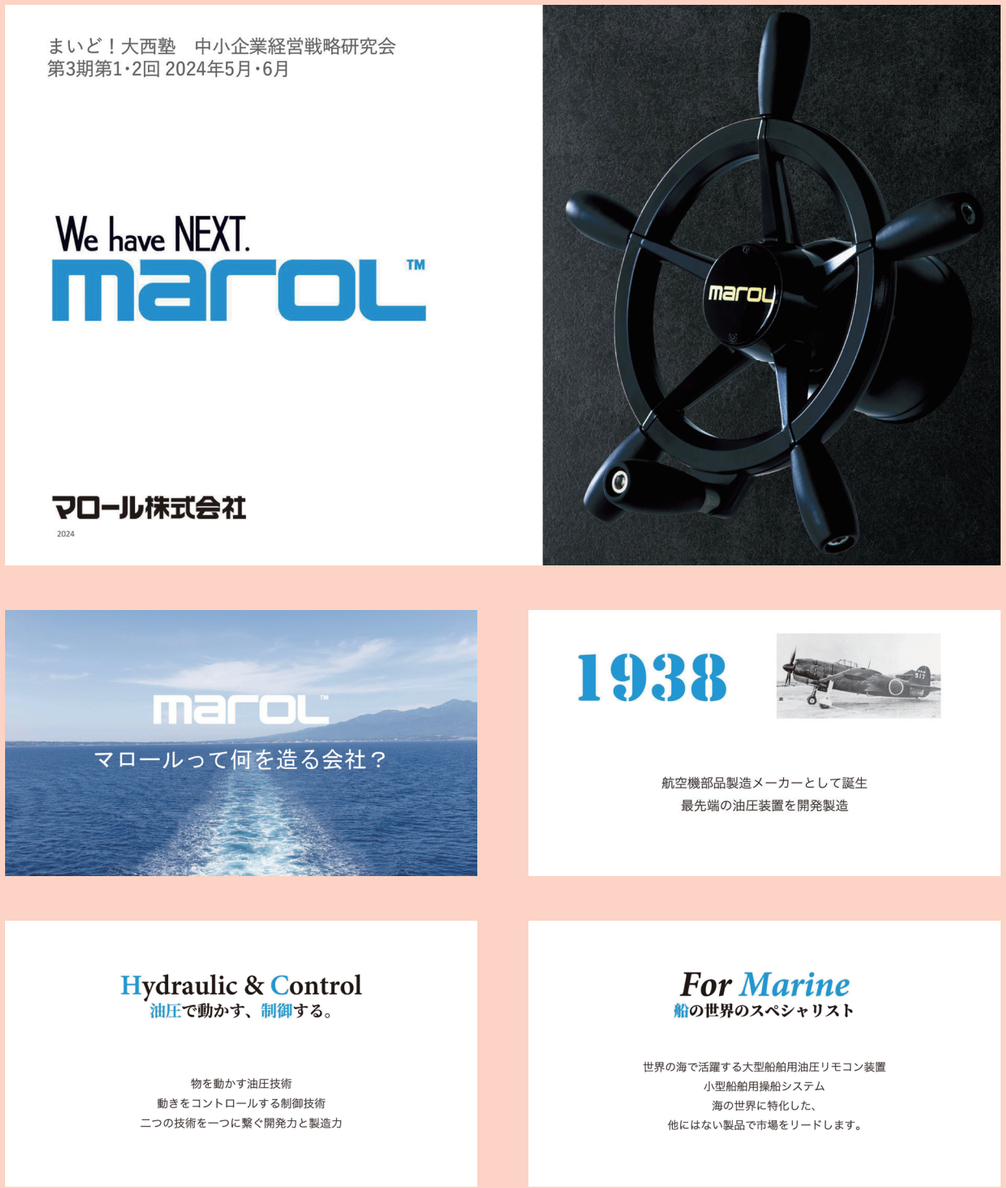
第4回大会　2024年09月25日（水）19:00～20:45
「『ものづくり企業』を元気にしたい −PART2−」
ものづくり知好楽 代表 森田 誠 様

第5回大会　2024年12月17日（火）19:00～20:35
「大阪府技術協会における 表彰制度による人材育成支援（前編）」
一般社団法人 大阪府技術協会 事務局長 中西 隆 様

第6回大会　2025年2月12日（水）19:00～20:30
「大阪府技術協会における 表彰制度による人材育成支援（後編）」
一般社団法人 大阪府技術協会 事務局長 中西 隆 様

WE have Next.（前編）

マロール 代表取締役社長　兎田 朗彦



まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第3期・第1回大会　議事録

開催日時：2024年05月09日（木）19:00～20:30
開催方法：オンライン／ZOOM
収録場所：マロール様 社屋（製品展示室・工場）
ご 講 演：マロール 代表取締役社長　**兎田 朗彦** 様

■タイトル

WE have Next.（前編）

■講演内容

1938年、航空機部品メーカーとして誕生したマロール様。翌年に勃発した第二次世界大戦を追い風に、最先端油圧装置の開発・製造で躍進を果たす。また、この頃に培った油圧による「動かす・制御する技術」は、同社の強みとして今も受け継がれている。時を経て、同社は活躍の舞台を大空から大海へと転移させた。現在では「船の世界のスペシャリスト」として、大型船舶用にリモコン装置を、小型船舶用には操船システムを手掛けており、市場をリードし続けている。

講師を務めたのは、マロール様の四代目社長である兎田朗彦氏。プレゼンシートを用いて、先に述べた同社の歴史から現在の事業展開、船舶の自立航行システム開発といった未来を見据えたチャレンジなど、時代の潮流を先取りした取り組みまでが紹介された。

続いて披露されたのは、「マロール潜入ルポ」。同社を舞台に兎田氏が聞き手役の森原に解説する動画を事前に作成しており、ライブ感たっぷりの短編映像として製品展示室と工場が紹介された。製品展示室では、静止画の資料では伝わらない各種製品の特長から構造、実際の動作までが確認できた。工場案内では、主に部品の機械加工を行う第一工場から仕上げまでを行う第二工場、油機組立工場、電子組立工場が公開された。いずれの工場も明るく清潔感があり、手を動かしながらも挨拶を忘れないエンジニアの姿もあった。なお撮影・編集は、同社の兎田正憲様によるものである。

※後編は第2回大会として、2024年06月20日（木）19:00～20:30に実施された。新西宮ヨットハーバー「関西ボートショー2024」にて収録された映像を上映。同イベントに出展されているマロール社のブースを兎田氏と森原、特別ゲストの神戸大学大学院海事科学研究科附属国際海事センター　リサーチフェローであり大西先生と元同僚の羽原敬二氏と訪問。レジャーボートの展示会場ではボートに乗り込み、同船に採用されているマロール製品を見ながら解説を聞くことで、その使用感をより具体的にイメージできた。



町工場とヨットハーバーから届ける、まいど教授への「感謝状」

まいど教授への「感謝状」

マロール 代表取締役社長　兎田 朗彦

出会いは一冊の書籍から

大西先生との出会いは、もう二十年以上前のことです。私の会社を先生の著書「時代の車窓から見た中小企業」に取り上げてくださったのがきっかけだったと思います。最初の頃は、父が対応していたかもしれません。けれども、はっきり覚えているのは、先生が取材に来られ、この部屋（マロール応接室）で長い時間お話をしたことです。

先生はとにかくエネルギーに満ちた方でした。どんな小さな町工場にも足を運び、現場の声を聞いておられた。机の上で得られる知識ではなく、自ら歩いて集めた“生きた知恵”を持っておられました。お話を伺ううちに、こちらがインタビューを受けているのか、先生が語っておられるのか分からなくなるほど。けれども、その時間はいつも楽しく、そして学びに満ちていました。

先生は「まいど、まいど」と言いながら町工場を訪ね歩かれていました。その姿から「まいど教授」と呼ばれるようになったと聞きます。中小企業を本気で愛し、現場の人々を尊敬してくださる方でした。そういう誠実な先生だからこそ、私たちも自然と心を開けたのだと思います。

最後の対話と、「まいど!大西塾」へ

大西先生とお話ししたのは、京都三条ラジオカフェのオンライン収録のときでした。再会を楽しみにしていましたが、先生は少し体調を崩されていて、直接お目にかかれなかったのが残念です。それでも、画面越しに変わらぬ笑顔で語りかけてくださり、あのときの声はいまも耳に残っています。

あの収録が、結果的に先生との最後の会話になってしまいました。終わったあと、妻と「これが最後になるとは思わなかったね」と話したのを覚えています。けれども、最後の場面でご一緒できたことは、私にとって何よりのご縁であり、わずかばかりでも恩返しできた時間でした。

その後、「まいど！大西塾」が立ち上がり、森原さんが先生の遺志を継いで運営されると聞いたとき、自然と「ぜひ協力したい」と思いました。先生が築いた“まいどの精神”を、形を変えて受け継ぐ場ができたことが、本当にうれしかったのです。

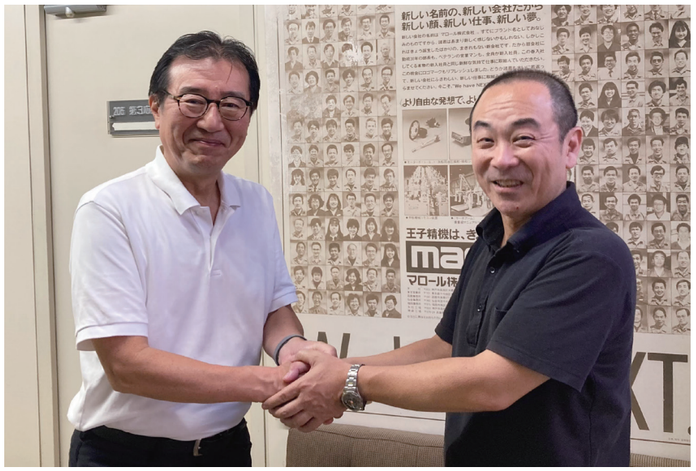
“まいど精神”を現場から届けたくて

「まいど！大西塾」で講師を務めたときは、前編を会社と工場で、後編をヨットハーバーで収録しました。現場からお伝えする映像講座は初の試みだったそうで、私自身も新鮮な体験でした。ものづくりの現場を見ていただくことで、言葉では伝わらない熱や空気を感じてもらえると思ったのです。

全編オンライン形式という点でも、塾は時代を先取りしていました。リアルの講義では、後ろでうとうとする人もいますが（笑）、オンラインでは逃げ場がない。話す側も聞く側も真剣勝負で、良い緊張感がありました。私自身、学ぶ気持ちを取り戻した時間でもありました。

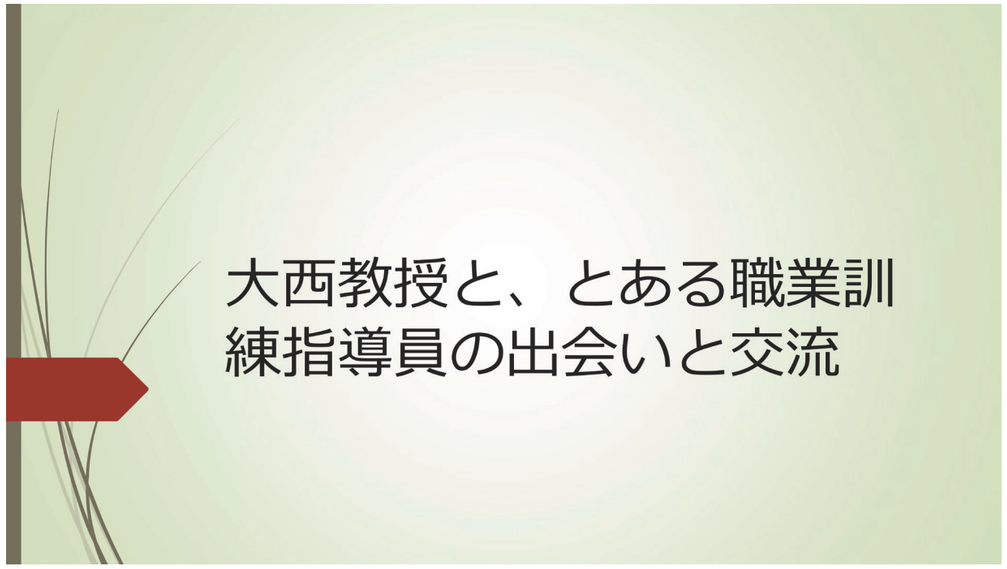
いま振り返れば、「まいど！大西塾」は大西先生の“まいど精神”そのものです。どんな時代でも、現場に寄り添い、人と人をつなぎ、学び合う。先生が愛した中小企業の世界を、次の世代へ渡すための灯火だと思っています。

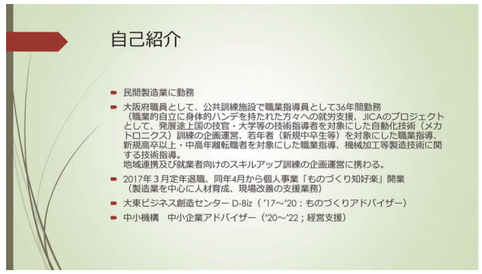
これからも私たちは、それぞれの現場で“まいど”の心を忘れずに歩み続けていきたい。そう願いながら、先生の笑顔を思い出す日々です。

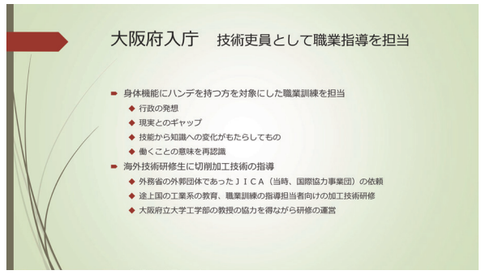


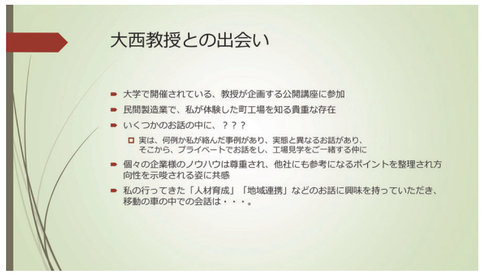
大西教授と、とある職業訓練指導員の出会いと交流

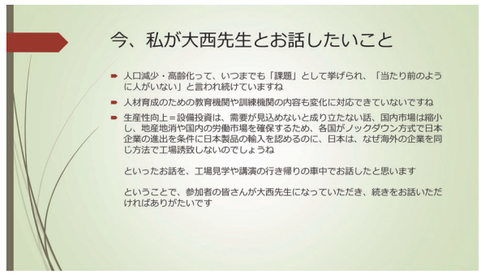
ものづくり知好楽　代表　**森田 誠**











まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第3期・第3回大会　議事録

開催日時：2024年08月29日（木）19:00～20:45
開催方法：オンライン／ZOOM
ご 講 演：ものづくり知好楽 代表　**森田 誠** 様

■タイトル

大西教授と、とある職業訓練指導員の出会いと交流

■自己紹介

初参加の月崎様、外島様による自己紹介が行われた。月崎様は40年間の会社員生活を経て、事業承継プランナーとして起業された。外島様は大企業に勤務し、駐米生活が長かったこと、現在はNPOで中小企業支援をしていると述べられた。

■一分間近況報告

苗村様より2点報告があった。まずは、関西万博に出展する企業に対する東大阪市からの支援についての現状。次に苗村様の自叙伝「轍なき道をゆく　～波乱万丈、「夢」があるから最高の人生に！～」が、国立国会図書館（東京本館、関西館）での蔵書が決まり、喜びと感謝の言葉が述べられた。

■セミナー

当日の講師、森田様より自己紹介があり、大西先生との出会いと交流、活動内容が話された。

民間製造業を経て、大阪府職員・職業指導員として36年間勤務。身体的ハンデを持つ方の就労支援や海外技術研修生の訓練、中卒生の就労支援において、現場調査の結果と自身の就労経験を活かし、創意工夫を凝らした訓練を実施。その後の多彩で豊富なキャリアが紹介された。

大西先生については「町工場の現実を知る貴重な先生」と考えて話し合ううちに意気投合し、「ものづくり企業を元気にしたい」との考えもにも共感された。お互いの強みを活かせるコンビであり、二人で取り組んできたこと、クルマ移動中に交わした本音トークなどが語られた。

中小企業ならではの底力が問われ、人材採用と教育には多様性の波が押し寄せる今、森田様の存在が頼もしく映ると同時に、大西先生のお考えが無性に聞きたくなった。

※後編は第４回大会「『ものづくり企業』を元気にしたい－PART2－」として、2024 年 09 月 25 日（水）19:00 ～ 20:45 に実施された。



感謝を胸に、共創のバトンを握りしめて。

ものづくりの火を次代へつなぐ

ものづくり知好楽　代表　森田 誠

先生との出会いがつないだ縁

私と大西先生との出会いは、2000年頃に関西大学で始まった特別公開講座でした。総合コーディネーターを務められていた先生と名刺を交換したことが、ご縁の始まりです。当時、私は大阪府で職業訓練指導員として「ものづくり人材の育成」に携わっており、中小製造業の課題について語り合う中で、先生と意気投合しました。

「まいど！大西塾」に初めて参加したときは、まいど！大西塾さんとは、私と大西先生との関係からあえて一定の距離を置かせていただきました。その理由は、森原さんにお伝えしておりますが、私と大西先生との間で交わしたお話が塾の主旨と異なる気がしたからです。先生のお人柄と情熱があったからこそ、その精神は今も塾の中に息づき、塾の中でご縁をつないでいるのだと思います。

中小企業の課題と可能性

私が担当した講義のテーマは「中小製造業と設備更新」でした。世の中ではDXや設備投資が注目されますが、日本の製造業は自動化率が高く、必ずしも投資が成果につながるわけではありません。むしろ「価格転嫁」の仕組みこそ課題だと考えており、また、講義や質疑を通し支援機関や教育機関などが日本のものづくりの強みを理解せず。製造業に日本の生産性が低い理由を押し付け設備投資を促していることです。大阪は繊維、化学、鉄工、食品など多様な業種が集積していること。さらに空港や港を備える世界でも稀な地域です。大阪の製造業の強みである専門性を持った独立企業が作ってきた「横受け文化」や地域での技能伝承の文化など。工場見学などでご一緒したときの大西先生との会話の一部を思い出しました。もし再び皆様とお話できる機会がございましたら、私が大西先生がおられたら議論していたであろうお話をさせていただきます。

仕事の流儀と先生から受け取ったもの

私は、工業高校から機械関連の知識を学び、三年生の時から金属切削について「工具形状と加工条件の関係」を実証実験させてもらい、理論の検証を行ってきました。民間製造業の現場で、生産工学や品質管理やコスト管理など、実践的に現場を学び、義父も鉄工所を営んでいたことから、義父の仲間の職人さんたちの本音にふれ、公務員になってからも、人材育成、産官学連携の難しさと向き合ってきました。その中で、大西先生は、大学教授という肩書を外し、専門性の違いの中で意見交換させていたことは、かけがえのない思い出です。

特に忘れられないのは、私が親しくお付き合いする「北九州の企業訪問する」という話をした時、すぐに「私も一緒に！」と言われたことです。先生の教え子が山口大学にいらっしゃったので、その方も合流し、3人で工場を見学したのです。その工場の特徴は、徹底した標準化と安全管理が徹底されている工場で、医療機器の加工を行っているところで、私が常に「標準化」の話をしていましたので、徹底した管理の現場に感心されていたのを憶えています。つい長居し帰りの新幹線に乗り遅れそうになり通路を一緒に駆けたことも思い出の一つです。

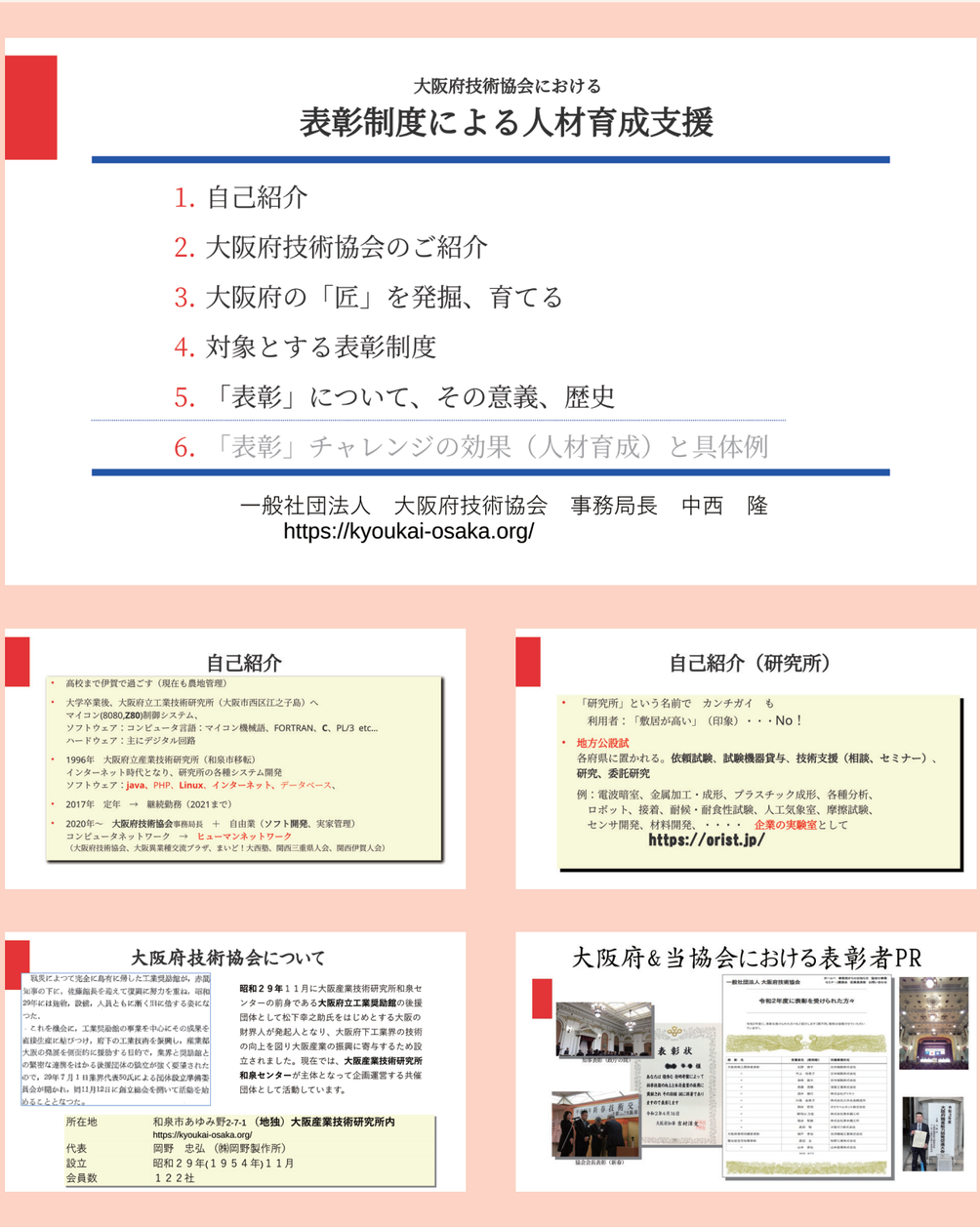
先生は日頃から「自分は社会学部の立場だから、中小企業のことは知っていても、実際の技術の細部になると…」とおっしゃっていました。そこで私が現場出身の立場から技術や経営の現実を補足し、先生は社会学ならではの視点から語られる。この時も、そんな役割分担が自然にできあがり、工場見学はただの視察ではなく、学びと気づきが重なり合う豊かな時間となりました。

約20年にわたり、先生から互いの関係をフラットにし、私の話をよく聞いてくださったこと。先生が「中小企業を元気にしたい」と語られた思いを、私も大切に受け継いでいきます。これからも先生への敬意を忘れず、「共創」というキーワードを胸に、ものづくりの未来をみんな一緒に築いていければと願っています。



大阪府技術協会における 表彰制度による人材育成支援

一般社団法人 大阪府技術協会 事務局長　中西 隆



まいど！大西塾　～中小企業経営戦略研究会～®

第3期・第5回大会　議事録

開催日時：2024年12月17日（火）19:00～20:35
開催方法：オンライン／ZOOM
ご 講 演：一般社団法人 大阪府技術協会 事務局長　**中西 隆** 様
参 加 者：８名

■タイトル

大阪府技術協会における　表彰制度による人材育成支援

■一分間近況報告

森原より近況報告が２点発表された。

①中西氏が事務局を、苗村氏が例会幹事を務める「大阪異業種交流プラザ」様のカルチャー例会へ参加。観光バスによる“大人の遠足”は親睦を深めるのに最適で、「まいど！大西塾」の活動へのヒントを授かった。

②来期の「まいど！大西塾」について、リニューアルを検討している。中西氏が事務局を務める「大阪府技術協会」様、前述の「大阪異業種交流プラザ」様、並木氏が監事を務めるKIR（京都イノベーション・リソース）様とのマッチングほか、大西博子様からもご提案をいただいている。

■セミナー

中西氏から自己紹介があり、コンピュータからインターネットまで、それぞれの黎明期から各時代の最新技術の習得に臨んできたことが語られた。2020年からは現職の大阪府技術協会様の事務局長と自由業（ソフト開発・実家管理）に取り組んでおり、「コンピュータネットワークから（マッチングも含めた）ヒューマンネットワークへと舞台を移している」と解説された。

次に、大阪府が技術者を社会の発展に貢献する「匠」と位置づけ、その活動を奨励すべく格式ある場で表彰していることと、表彰制度の多彩さが告げられた。なかでも現場の創意工夫に着目する同協会ならではの着眼と、その目的には関心が集まった。

表彰されるには、技術や工夫を審査員にわかりやすく伝える必要がある。活字化することで技術が承継され、知財として残る反面、技術者には文章づくりが苦手な者も多いという。「理解の壁」を越えるには、どうすれば良いか。表彰チャレンジの効果と合わせて、次回への期待が膨らむ。

※後編は第 6 回大会として、2025 年 02 月 12 日（水）19:00 ～ 20:30 に実施された。



一期一会を大切に人と人をつなぐ

縁の下のネットワーク

一般社団法人 大阪府技術協会 事務局長　中西 隆

「大西先生」という名のもとに集う熱量

私が「まいど！大西塾」に初めて関わったとき、まず驚かされたのは、その中心にいる大西先生への深い尊敬の念が、参加者全員の共通言語として息づいていることでした。私自身は大西先生と直接お会いしたことはなく、お名前を存じ上げていたわけでもありません。しかし、個人の名前を冠した会がこれほどまでに継続し、熱量を持って運営されている事実に、大西先生という方の計り知れない人間的魅力を感じずにはいられませんでした。

最近では大学教授のイメージも、単なる知識の伝達者から、深い見識や「験識（体験に基づいた認識）」を持つ実務的な方へと変わってきているように感じますが、大西先生はまさにその先駆けのような存在だったのでしょう。初めて参加した際は、長年築き上げられた皆さんの強固なコミュニティに、少なからず「アウェイ感」を覚えたのも正直なところです。しかし、それほどまでに密度の濃いコミュニケーションが取れているこの会の在り方そのものが、一つの理想的な形であると感銘を受けました。

恩返しの想いから繋がった講義

今回、私が講師として教壇に立つことになったのは、日頃から多大なる尽力をいただいている森原さんへの「恩返しをしたい」という想いが出発点でした。折しも、私が事務局長を務める技術協会で表彰制度の募集時期を迎えていたこともあり、その知見を共有することが塾の皆さんのお役に立てるのではないかと考えたのです。

実際の講義や質疑応答では、私のような支援側の人間とは異なるバックボーンを持つ「経営者」の方々の視点に大いに刺激を受けました。グループ議論をまとめる役を担った際、飛び交う質問の鋭さや視点の違いに、私自身の専門分野とは異なる世界の奥深さを痛感したほどです。自らの話を提供しに行ったはずが、結果として私の方が「感想」しか出てこないほど多くの学びを得る機会となりました。特に、オンラインツールを駆使したスムーズな運営形態は、これからの組織運営における可能性を示してくれました。

遠くの空と人を結ぶ、仕事の流儀

私の人生の軸にあるのは、幼少期にトランシーバーに憧れた頃から変わらない「遠くの人と繋がりたい」という好奇心です。その情熱は職業としてコンピュータネットワークの世界へ繋がり、リアルタイムでデータを共有し、意思を通わせることの喜びに昇華されました。

仕事の流儀として大切にしているのは、目立つ場所ではなく、人と人をつなぐ「バックヤード」として組織の縁の下を支えることです。大西先生が繋いでくださったこの「一期一会」の縁も、一つの大切なネットワークです。これからもICTを駆使し、様々な組織や人が円滑に結びつくための土壌を作っていくことが、私の使命だと考えています。

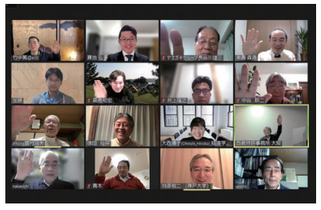
「まいど！大西塾」という場を通じて得た新たな視点は、今後私が多様な組織をサポートしていく上での大きな糧となりました。この素晴らしい縁をいただいた大西先生、そして塾の皆さんに心からの感謝を捧げるとともに、これからのさらなる発展を願っております。



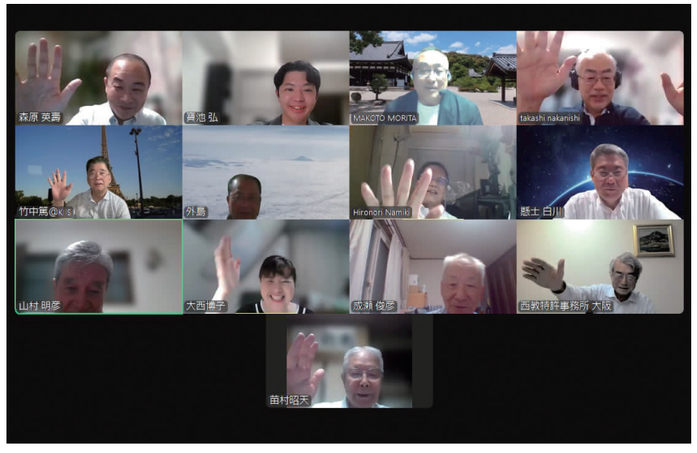


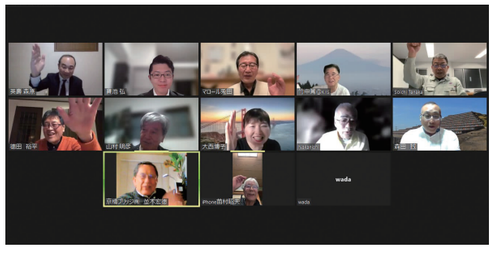

takashi nakanishi
MAKOTO MORITA
Hironori Namiki
西教先生

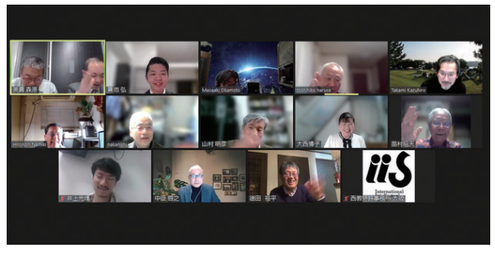







森原 英壽
MAKOTO MORITA
takashi nakanishi
竹中篤@KIS
外島
Hironori Namiki
懸士 白川
山村 明彦
大西博子
苗村昭天
西教特許事務所 大阪



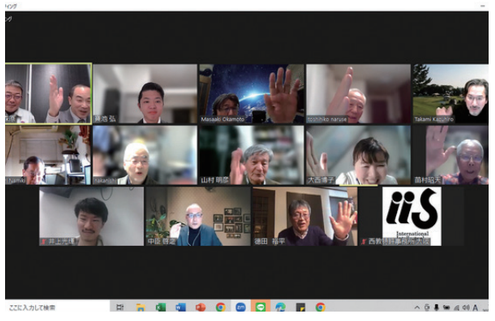

iiS


MAKOTO MORITA
森原 英壽
園田博太
大西博子
西教特許事務所 大阪
北島誠士
中西 隆
竹中篤@KIS
苗村昭天
Soichi Tanaka
徹 林田


takashi nakanishi
マロール 兎田
森原 英壽
大西博子
成瀬 俊彦
Hironori Namiki
西教先生

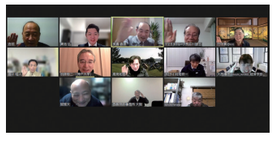



森原 英壽
MAKOTO MORITA
takashi nakanishi
竹中篤@KIS
外島
Hironori Namiki
懸士 白川
山村 明彦
大西博子
成瀬 俊彦
西教特許事務所 大阪
苗村昭天


iiS


マロール 兎田
森原 英壽
Hironori Namiki
徳田 裕平
白川
神戸大 羽原敬二
大西博子
Nakanishi
西教特許事務所 大阪
MAKOTO MORITA
森原 英壽(映像用)
森原 英壽(映像用)
wada
wada







まいど教授へ捧ぐ、心からの「ありがとう」。

父の遺した「志のバトン」を通じて知った、その偉大さと、かけがえのない仲間の絆

まいど！大西塾　名誉会長　大西 博子

受け取ったバトンの重み。父の「まいど」を絶やさないための挑戦

私の父・大西正曹は関西大学社会学部の教授で、「まいど教授」と呼ばれていました。東大阪の町工場を「まいど、まいど」と訪ね歩いたことが、その愛称の由来です。父は研究者でありながら現場に足繁く通い、日本の中小企業の力を支えたいと願っていました。

父が亡くなった後、その志を途絶えさせたくないという強い思いから「まいど！大西塾」が生まれました。新しく立ち上げたというより、父が遺した思いを受け継ぎ、終わらせないための場でした。これは私にとって「事業承継」のようなものだったと感じます。

立ち上げに際しては、森原さんをはじめ多くの方々の支えがありました。もしその時期にお力添えがなければ、私は父の活動の真意を知ることもなく、塾を開くこともできなかったでしょう。父がいかに多くの人に信頼され、愛されていたのかを、私はあらためて実感できたのです。

父の偉大さを知る旅。学者でありながら、誰より現場を愛した人へ

正直に言うと、生前の私は父を「いつも忙しく外に出ている人」という程度にしか捉えていませんでした。ところが「まいど！大西塾」を通じて父と関わった経営者や研究者のお話を伺ううち、父の偉大さに気づかされました。皆さんの言葉から浮かび上がる父の姿は、ただの研究者ではなく、人々に行動を促し、共感を生み出す存在だったのです。

父は考えるより行動する人で、机に向かうより外を歩いている時間の方が長い研究者でした。豆に動き、人の声を聞き、恩を受けたら必ず返す。その誠実さが多くの人の心を動かしていたのだと思います。

私は京都外国語大学で中国語方言の研究をしています。データを収集すると、さらに確かめに行きたくなる衝動に駆られるのですが、その姿勢は父に似ています。ただ、父は集めるばかりでなかなか活字に残さなかった。そこを私は反面教師とし、必ず成果にまとめることを自戒としています。学者として、そして人として、父の生き方は今も私の大きな指針です。

心からの感謝を込めて。「恩送り」の連鎖が、新たな奇跡を起こすまで

「まいど！大西塾」は単なる勉強会ではありませんでした。知識を得る場にとどまらず、参加者同士が共感し合い、心を動かされる場でした。講師の方々が語る人生観や体験談には重みがあり、学会や研究会では得られない感動がありました。その感動こそが、参加者をつなげ、次の行動へと駆り立てる原動力になったのです。

現代はスマホ一つで完結する閉じた社会ですが、心を震わせるような対話の時間は、今こそ必要ではないでしょうか。父が大切にした「恩返し」や「恩送り」という日本人の心も、塾を通じて多くの人に伝わったことと思います。

そして何より、この塾があったからこそ私は父のすごさを知り、父を尊敬する気持ちを新たにしました。同時に、塾を支えてくださった皆さんへの感謝も深く心に刻まれています。私一人では到底できなかったことを、多くの方々の力が実現してくださったのです。

今は、新たに同じような場が生まれることを願っています。充電期間を終え、再起動するのも良いでしょう。形式は違っても構いません。大切なのは人が集まり、共感し、感動し、次につながるきっかけを持つことです。父が愛されたのは、そのつながりを大切にしたからだと思います。

私にとって「まいど！大西塾」は、父への尊敬と皆さんへの感謝、その両方を強く感じる場でした。この活動記録が誰かの目に留まり、また新たな挑戦の火種となれば、天国の父もきっと目を細めて喜んでくれることと思います。

大西先生から受け継いだ志

まいど！大西塾の会長であり、株式会社まいど七分目代表の森原英壽です。私は約10年間にわたり大西先生に師事し、先生とともに全国各地の取材・調査に携わってまいりました。僭越ながら、自らを先生の最後の教え子であると自負しております。

株式会社まいど七分目の設立も、大西先生のご要望にお応えして実現したものです。先生は、この会社を土台として新たな事業を展開していきたいと考えておられ、その構想の一つが「異業種・世代間交流会」でした。

私はその志を受け継ぎ、先生が築いてこられたご縁を未来へつなぎたいとの思いから、互いに学び、高め合う場として「まいど！大西塾」を立ち上げました。大西先生の教えを大切にし、「一人ひとりが先生であり、一人ひとりが生徒である」という理念を込めて名付けたものです。

「モノづくりはヒトづくり。日本の未来を切り拓くには、次世代の人材育成こそが重要である。」

これは大西先生が折に触れて語られていた言葉です。その思いを形にするため、「まいど！大西塾」には大学の先生や現役の学生にも参加いただきました。経営者や技術者にとってはZ世代の感性や価値観に触れる機会となり、学生にとっては社会の第一線で活躍する方々から学ぶ貴重な場となりました。私自身も多くの刺激と学びをいただき、おかげさまで約3年間、全18回にわたり開催することができました。

講師をお引き受けくださった皆様、Zoomでご参加くださった皆様、そして会場まで足を運んでくださった皆様、本会の運営を全回にわたってサポートいただいた寶池様にも、心より感謝申し上げます。交流会でも世代や業種を超えた交流が生まれ、多くのご縁が育まれました。また、会費という形で運営を支えてくださった皆様にも、深く御礼申し上げます。



まいど！大西塾　会長　**森原 英壽**

このたび、「まいど！大西塾」名誉会長であり、大西先生のご長女である博子様のご尽力により、本誌を発行することができました。お父様の志を大切に受け継ぎ、皆様とのご縁をさらに深めたいというお姿には、心から敬意と感謝を申し上げます。

今後は「まいど！大西塾」同窓会の開催、さらには塾の再開も視野に入れております。大西先生から受け継いだ志を皆様とともに未来へつないでまいりたいと存じます。

引き続き、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。